

和仏法律学校講義録

勝本，勘三郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

3

(号 / Number)

号外の4

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1901-03-30

和佛法律學校

講義錄

第 參 部

號 外 之 四

刑
法
各
論
(自四六
至五六)
講學士勝本勘三郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

090
1900
3-2-4

トナレ但シ本罪ハ少シク文書偽造罪ト歸ラ異ニシ裁判官ノ訊問シ又ハ鑑定通
 譯ヲ命シタル事項ハ概テ犯罪ノ有無又ハ輕重ヲ決スルノ要點ニ關シ證人鑑定
 人通事タル者ハ極メテ懸念ノ者ニ非サル以上ハ之ヲ知ラサルコトナシ隨テ不
 實タルコトヲ知リテ之ヲ爲ス場合ニ於テハ概テ其レ自身裁判ヲ誤ラシムヘキ
 結果即チ害ヲ生セシムルノ意思ナシト云フヘキ場合殆ト之アルヘカラスト雖
 モ塞村僻陋ニ住シ事理ノ何者タルコトヲ辯セサル者ハ敢テ裁判ニ影響ヲ有ス
 ヘキモノト信セスシテ妄ニ言フヘキ事ヲ言ハス言フヘカラサル事ヲ言フ者ナ
 シトセス例ヘハ被告カ證人タル被害者ヲ毆打シタルハ被害者ニ於テ被告ニ對
 スル債務ヲ辨濟セタルニ因ルモノナル場合ニ酌量ノ情アルニモ拘ラス證人タル
 被害者ハ人ヲ毆打シタル以上ハ如何ナル場合ト雖モ刑法ノ正條ニ依リテ處斷
 セラルヘキモノニシテ其原因ノ債務不辨濟ニ在ルト否トハ刑ノ酌量等ニ關係
 ヲ有スヘキモノニ非スト信シ其原因ヲ言ハサリシ場合ノ如シ
 人或ハ予輩ト同シク害ヲ生セシムルノ意思若クハ裁判ヲ誤ラシムルノ意思ヲ
 要スラフコトヲ揚タルニモ拘ラス本要素ハ單ニ總則ノ適用ニ外ナラス隨テ具

實ナリト信シテ陳述シタルニ意外ニモ不實ナリシトキハ茲ニ所謂意思オキモ
ノニシテ無罪タリト説明スル者アリト雖モ是レ本要素ノ意思ハ勿論總則ノ適
用ヲフコトタモ了解セサル者ナリ如何トナレハ論者ノ説明ハ恰モ殺人罪ノ被
告人カ人ヲ殺傷スルノ意思タモナキトキハ殺人罪トシテハ無罪タリト云フ
一般説明ヲ要セサルハ勿論ノモノタルノミナラス總則ノ罪ヲ犯ス意ナシト云
フコトハ漠然犯罪ノ意思ナシト云フノ義ニ非ス各犯罪カ必要トシタル意思ナ
シト云フノ義蓋シ或犯罪ニ付キ意思ナキカ故ニ無罪又ハ其犯罪トシタル之ヲ
論セスト云フコトハ總則第七十七條ノ存スルニ由リテ始メテ之ヲ言フヲ得レ
ハナリニシテ總則ノ適用ヲフコトヲ謂フトキハ如何ナル犯罪モ之カ適用ヲ受
ケサルコトナケレハナリト意思ハ「犯罪ノ意思」トシテハ「犯罪ノ意思」トシテハ「犯罪ノ意思」
然ラハ苟モ裁判ヲ誤ラシメ不正ニ當事者ヲ利シ又ハ害スルコトヲ知リナカラ
不實ノ證言鑑定又ハ通譯ヲ爲セタル場合例ヘハ財物ヲ詐取セラレタル者カ自己
ノ疎虞ヲ蔽ハシカ爲メ詐取セラレタルコトナシト偽リ又ハ證人カ自己ノ證言スヘ
キ本件ノ共犯人隨テ被告人タルヘキ者ナリシカ爲メ犯罪ノ事實ヲ掩蔽シタル

場合ノ如キ縱令自己ノ利益ヲ保護センカ爲メ偽證ヲ爲シタル場合ト雖モ犯罪
ヲ構成スヘキヤ曰ク本問ハ場合ヲ分チ説明セサルヘカラス若シ其證人タル者
カ刑事訴訟法第百二十三條及ヒ第百二十四條ニ該當スヘキ者タルトキ若クハ
尙ホ一層無能力タルヘキ理由ノ存スル被告人其人縱令證人ノ名義ヲ以ラスル
モタルトキハ先ニ説明シタル所ノ理由ニ據リ常ニ無罪タリト雖モ若シ其他ノ
者タルトキハ自己ノ利益ヲ保護センカ爲メタルト否トニ關セス常ニ有罪タリ
蓋シ私益ハ公益ノ犠牲タラサルヘカラサレハナリ因ニ言フ本問證人カ被告人
タリト場合ニ關シ學者或ハ被告人ハ自衛ノ權即チ辯護權アルカ故ニ無罪タリ
ト云フカ如キハ理由ノ根據ヲ漠然タル獨斷定數ニ置キタルモノニシテ探ルニ
足ラサルモノトス)

第二款 處分

本罪ノ處分ニ關シ法律ハ先ツ之ヲ刑事ニ關スルモノト民事商事行政裁判ニ關
スルモノト二者ニ通スルモノトニ分テリ仍ラ本款ハ之ヲ三項ニ分テテ説明ス

第一項 刑事ニ關スルモノノ處分

刑事ニ關スルモノノ處分ニ付キ法律ハ先ツ之ヲ被告人ヲ曲庇セント欲スル意思ニ出タル場合ト陷害セント欲スル意思ニ出タル場合トニ分テ更ニ之ヲ偽證ニ因リテ被告人刑ヲ免レタル場合ト然ラサル場合トニ區別セリ

第一段 被告人ヲ曲庇セント欲スル意思ニ

出テタル場合

甲 被告人正當ノ刑ヲ免レナリシ場合

第二百十八條ニ曰ク刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出テラレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス二、重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處テ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス二輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以上ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス三、違警罪ヲ曲庇

スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

(二) 曲庇トハ佛語 pour(爲メ)又ハ利益ニノ義即チ不正ニ被告人ヲ利スルノ義ニシテ或刑ヲ受クヘカリシ被告人ヲシテ不正ニ輕キ刑ヲ受ケシメ又ハ全ク之ヲ免レシメントスルヲ謂フ(二)重罪輕罪違警罪トハ何ソヤ單ニ法律ノ字面上ヨリ云フトキハ犯罪ノ性質カ重罪輕罪又ハ違警罪タルヘキモノト云フノ義ニシテ例ヘハ縱令單純ナル竊盜隨テ輕罪事件ノ被告人トシテ訴追セラレタル者ト雖モ證人ニ於テ其強盜隨テ重罪ニ該ルヘキモノタルコトヲ知リテ掩蔽シタルトキハ犯罪ノ性質カ重罪タルヘキ者ヲ曲庇シタルモノナルカ故ニ重罪ヲ曲庇シタルモノト謂ハサルヘカラサルカ如キモ(イ)ボ氏佛文第一章案第二百五十一條第二項「*Si l'agit pour punir pour contrevention ; pour suit correctionnelle ; criminelle*(即チ違警罪輕罪重罪ノ訴追ニ關シ云云)アリテ之ヲ翻譯シタル日本文草案ハ全ク明文ト同一ナルト(ロ)若シ前者ノ如ク解スルトキハ例ヘハ同一輕罪事件ノ被告人ニ對スルモノナルニモ拘ラス或證人ハ其重罪ヲ知ルニ拘ラス之ヲ曲庇シタル爲メ重罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰セラレ或證人ハ其輕罪ヲ知ルニ拘ラス之ヲ曲庇

シタル爲メ輕罪ヲ曲庇シタル者トシテ罰セラルル等極メテ奇觀ヲ呈スルトハ(一)曲庇トハ裁判所ヨリ訊問又ハ要求セラレタル事項ニ對スルノ語ニシテ裁判所ヨリ訊問又ハ要求スヘキ事項ハ現ニ訴追セラレツアル事項ヲ標目トスルモノナルトニ據リ予ハ明文ハ全ク草案同シク重罪輕罪違警罪トシテ訴追セラレタル犯罪事件ニ於テノ義ト解スヘキモノニシテ例ハ前例ニ於テ證人カ竊盜トシテ訴追セラレ事件ニ付キ其知レル強盜事件ヲ掩蔽シタル者ハ輕罪ヲ曲庇セタル者ト謂フヘシト信ス(二)右ノ如ク我國ニ於テモ佛國刑法第三百六十一條及第三百六十二條("en matiere criminelle," correctionnelle," de police," 重罪輕罪違警罪ニ於テト)同シク重罪輕罪違警罪事件トアルヨリシテ佛國ニ於ケル有力ナル學說ト共ニ豫審ハ公判ノ如ク重罪輕罪違警罪等ノ別ヲ爲サス專ラ免訴スヘキヤ若クハ何レノ公判ニ付スヤノ準備調査ヲ爲スモノナルカ故ニ豫審ニ於テハ偽證罪ヲ成立セスト曰フ者アルヘシト雖モ佛國ニ於テ本說ノ有力ナル所以ハ畢竟佛國ニ於テハ豫審判事ハ司法警察官ノ一人ニシテ其公庭ハ所謂裁判所ト云フヘキモノニ非サルカ故ナルノミナラス現ニ佛文章案第二百五十一條ノ明

文ニ"Sort d'ams une instruction, soit à l'audience"(公判又ハ豫審ニ於テ)アリテ之ヲ明カニスルト同時ニ我國ニ於テハ豫審判事ハ純然タル裁判官ニシテ其公庭ハ所謂裁判所ナルカ故ニ本說ハ我國ニ於テハ到底半文ノ價值タモ有セサルモノトス(四)違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス(トハ)違警罪ノ偽證罪即チ第四百二十五條第十四號ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スル義ナリ

乙 被告人正當ノ刑ヲ免レタル場合

第二百十九條ニ曰ク偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ(ト)

(二)法律ハ「刑ヲ免カレタル時」トアルカ故ニ一部又ハ全部ノ免刑ノ旨渡又ハ免訴ノ決定ヲ受ケタルモ爲メニ其免刑又ハ免訴ノ結果ヲ生セザリシ場合又ハ豫審ニ於テ輕キ決定ヲ受ケタルニ過キタルトキハ前條ニ入ルヘキモノトス然レトモ法律ハ單ニ「正當ノ刑ヲ免カレ」トアリテ必スシモ無罪又ハ免刑ト爲リシコトヲ要セサルカ故ニ偽證ノ爲メ有罪タルヘキ者カ無罪ト爲リ刑セラルヘキ者カ

免刑ト爲リタルトキハ勿論重ク刑セラルヘキ者カ輕ク刑セラレタルトキモ亦前條ニ照シテ各一等ヲ加フヘキモノニシテ前例ニ於テ被告人カ強盜ノ刑ヲ乞クヘカリシニ單ニ竊盜ノ刑ヲ受クルニ止マリタルトキハ前條第二項第一號ノ刑ニ一等ヲ加ヘ處斷セラルヘキモノトス

(二)違警罪ニ付テハ第四百二十五條第十四號ニ於テ本條ニ依ルノ明文アルカ故ニ該條ト本條及ヒ前條トヲ適用シテ處斷スルコトヲ要ス

第二段 被告人ヲ陷害セント欲スル意思ニ出テタル場合

甲 被告人刑ヲ受ケタル場合

第二百二十條ニ曰ク「被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス」(一)重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(二)輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(三)違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ

二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト

(一)陷害トハ佛語(Cover)對抗シテ又ハ不利益ニ(一)義即チ不正ニ被告人ヲ害スルノ義ニシテ全ク刑ヲ受ケヘカラス若クハ輕キ刑ヲ受ケヘカリス被告人ヲシテ不正ニ刑ヲ受ケ又ハ重キ刑ヲ受ケシメントスルコトヲ謂フ(二)重罪、輕罪、違警罪トハ前ノ場合ノ如ク重罪、輕罪、違警罪事件ノ義ニシテ其然ラサルヘカラサル理由亦前ノ如シ參看スヘシ

乙 被告人刑ヲ受ケタル場合

本場合ニ付キ法律ハ更ニ之ヲ(一)偽證ニ因リテ被告人カ死刑以外ノ刑ニ處セラレタル場合ト(二)死刑ニ處セラレタル場合トノ二ニ區別ス

一 被告人死刑以外ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二百二十一條ニ曰ク「偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス」其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前

條偽證ノ利ヨリ降スコトヲ得スト

(一) 第一項ニ付テ (イ) 法文ニ偽證ノ爲メ被告人利ニ處セラレタル後トアルト同時ニ第二項刑期限内ニ於テ偽證罪發覺シタルトキハ反坐ノ刑ヲ輕減スル規定アルトニ據リ本項ハ偽證ノ爲メ被告人カ不當ナル刑罰ノ執行ヲ受ケタル時以後ノ處分法ヲ規定シタルモノニシテ其以前ニ係ルトキハ縱令偽證ノ爲メ不當ナル刑ノ宣告ヲ受ケタルモ本條ニ入ラスシテ前條ニ入ルヘキモノトス(ロ) 反坐トハ被告人カ受ケタル刑ト同一ノ刑ニ處スルノ義ナリ(ハ) 被告人ノ受ケタル刑隨テ反坐スヘキ刑第二百二十條ニ記載スル所ノモノヨリモ輕キトキハ同條ニ依リテ處斷ストハ例ヘハ無罪ノ被告人ヲ違警罪ニ陷害シ被告人違警罪ニ處セラレタル場合ニ於テハ反坐スヘキ刑第二百二十條ニ記載スル所ノモノヨリモ輕キカ故ニ第二百二十條違警罪ヲ陷害シタル場合ノ刑ニ照シ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加スルカ如シ被告人カ陷害ニ因リテ罰金ニ處セラレタル場合ニ於テモ亦罰金ハ體刑ヨリ輕キモノトスルカ故ニ同一ノ結果ニ出ワヘシニ偽證罪ハ常事犯罪ナリト雖モ被告人ヲ陷害シテ國

事犯ノ利ヲ受ケシメタル場合ニ於テ反坐ノ刑ニ依ルヘキ時ハ國事犯ノ刑ニ處スヘキモノニシテ之ト對當スル常事犯罪ノ刑ニ處スヘキモノニ非ス單ニ反坐トアルカ故ナリ

(二) 第二項ニ付テ (イ) 本項ハ被告人カ不當ナル刑ノ執行ヲ受ケ了ラサル間ニ偽證罪發覺シタルトキノ處分法ヲ定メタルモノトス(ロ) 現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得トアルカ故ニ裁判官ハ必スシモ本項ニ依リ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ要セス事情ニ依リ經過シタル日數以上ノ刑ヨリ被告人カ宣告セラレタル刑期マヲノ間ニ於テ適當ノ刑ヲ科スルコトヲ得ヘキノミ(ハ) 減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ストアルカ故ニ例ヘハ偽證罪ノ爲メ十年ノ重懲役ニ處セラレ一年ヲ經過シタルトキ偽證罪發覺シタルトキハ一年ノ重懲役ニ處スルコトヲ得ス第二百二十條第一號ニ依リ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加セサルヘカラス
二 被告人死刑ニ處セラレタルトキ
第二百二十二條ニ曰ク偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一

等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス若シ被告
人ヲ死ニ陷ルルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執
行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減スト

(二)第一項ハ死ニ陷ルルノ目的ナキ場合ヲ第二項ハ其目的アル場合ヲ規定ス(一)而
シテ前段ノ刑死刑ニ入ラサルニ後段ノ刑死刑ニ入ルモノハ前段ハ殺意ナキモ
後段ハ殺意殊ニ謀殺ノ意アレハナリ(三)第一項及ヒ第二項共ニ其前半ハ死刑ノ
執行ヲ了リタル後ニ偽證罪發覺シタル場合ヲ其後段ハ判決確定以後未タ死刑
ヲ執行セサル間ニ偽證罪發覺シタル場合ヲ規定ス隨テ經令死刑ノ宣告ヲ受タ
ルモ未タ確定セサル間ニ發覺シタルトキハ第二百二十條第一號ニ依ラサルハ
カラス

前段ハ被告人ヲシテ不當ニ刑ヲ免レ又ハ免レシメントシタルモノ本段ハ不當
ニ刑ヲ受ケ又ハ受ケシメントシタルモノニシテ二者均シク公益ヲ害スルニ拘
ラス本段ノ刑罰比較的重キ所以ハ彼ハ單ニ國家全般ノ公益ヲ害スルニ過キサ
ルモ此ハ國家全般ノ公益ヲ害スルト同時ニ一箇人ヲモ害スルノミナラス我々

律一般ノ主義ニ於テハ百ノ有罪者ヲ無罪タラシムルヨリモ事コトノ無罪者ヲ
罰スルコトヲ恐ルレハナリ

第二項 民事、商事、行政裁判ニ關スルモノノ處分

第二百二十三條ニ曰ク民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一
月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス下

即チ法律ハ其結果ノ如何ヲ問ハス總テ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スルコトモリ畢竟刑事ノ如ク人ノ身上ニ關セサ
ルモノニシテ其害敢テ重大ト謂フヲ得サルカ故ナルヘシト雖モ感學者ノ主張
スルカ如ク刑罰稍ヤ輕キニ失スルノ感アリ

人或ハ刑事ニ付テハ曲庇又ハ陷害ノ文字アルニ拘ラス本罪之ヲ缺如スルカ故
ニ民事、商事、行政裁判ニ關シテハ惡意ハ勿論害ヲ生スヘキ危險アルコトモ亦之
ヲ要セス單ニ不實ナルコトヲ知リナカラ不實ノ證言、鑑定通譯ヲ爲スノミヲ以
テ罪ヲ構成スト云フト雖モ先ニモ説明セシ如ク本罪ニ限リ惡意又ハ實害ヲ要

セサル理由ノ存スヘキモノナキカ故ニ予ハ之ヲ採ラス
第三項 刑事ト民事、商事、行政裁判トニ共通

法律ハ刑事ト民事商事、行政裁判トノ處分ニ共通スルモノニテ規定セリ

甲 偽證ヲ囑託シタル者ノ處分

第二百二十五條ニ曰ク「賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シト」

是レ我母法タル佛國刑法第三百六十五條所謂 Subornation de témoins (直譯スレバ證人ヲ駕御スル罪即チ證人ヲ使喚シテ偽證ヲ爲サシメタル罪)ニ相當スルモノナリ而シテ佛國ニ於テ其初メ之ヲ規定シタルハ主トシテ被教唆者タル偽證者其人ヨリモ罪狀ノ惡ムヘキモノアルカ故ニ被教唆者タル正犯ヨリ稍ヤ嚴重ニ處罰セント欲シタルルト從トシテ偽證罪ハ證人ト云フ身分ニ因リテ構成スヘキ犯罪ナルカ故ニ疑ヲ留メサランカ爲メトニ出テタルモノナルモ千八百三十二年刑法修正ノ際正犯ヨリモ重ク處罰スルノ必要ナシトノ意見多數ヲ占メ遂

ニ普通ノ原則ニ依リ偽證者タル正犯ト同一ノ刑ヲ科スルコト爲リ主タル理由ハ全ク消滅シ從タル理由ノミニ據リテ存在スルコトト爲レリ我明文ノ彼ト其體裁ヲ同シウスルモ亦畢竟沿革ヲ重シテ彼ヲ模倣シタルニ外ナラサルヘシ本條ニ該當スルボ氏佛文章案第二百五十八條ノ註釋ニ「C'est l'application pure et simple de l'article 118 (總則教唆ノ法條) la loi eût pu la laisser à la sagacité des juges, mais il est de tradition législative d'insister, à côté de la peine du faux témoin celle de son corrupteur (是レ第二百十八條ハ單純ナル適用ニ過キササルカ故ニ裁判所ノ應用ニ委シテ可ナリト雖モ偽證罪ノ刑罰ノ傍ニ之ヲ廣敗セシメタル者ノ刑罰ヲ規定スルハ從來ハ慣習ナリトアリ以テ之ヲ知ルニ足レリ」

然レトモ本條ノ規定ハ之ヲ總則教唆ノ規定ト對照スルニ彼ニ在リテハ單純ニ人ヲ教唆シテ云云トアルモ此ニ在リテハ「賄賂其他ノ方法ヲ以テ云云」トアリ其間果シテ異ナル所ナキヤ本問ニ付テハ二箇ノ見解アルヘシ

第一說「ボ氏佛文章案第一(第二共ニ)總則一般ノ教唆犯ニ付テモ或特段ナル方法ヲ用ヒタルコトヲ要スルノミナラス理論上ヨリスルモ之アルニ非スンヤ教

唆即チ他人ヲ使唆シタリト看ルヘキ行爲アリト謂フヲ得ス然ラハ明文總則ノ規定ニ於テハ單ニ教唆シテ云云トアルモ畢竟手段ノ記載ヲ省略シタルニ過キスシテ其意本條ト同一ナルカ故ニ彼此區別アルコトナシ

第二說 佛文章案ノ規定ハ第一說ノ如シ然レトモ手段ナクシテハ使唆アリト看ルヲ得スト云フハ非ナリ使唆ノ行爲アリヤ否ヤハ偏ニ事實ニ依ルヘキノミ然ラハ明文總則ノ規定ニ於テ單ニ教唆シテ云云トアルハ彼ノ佛國法カ手段ヲ限リタルノ缺點ヲ矯正シタルモノニシテ從來ノ規定ニ一步ヲ進メタルモノタリ單ニ手段ヲ省略シタルモノト謂フヲ得ス然ラハ彼ト此トノ間大ニ異ナルモノアリ

(一) 二說孰レヲ採用スヘキヤト云フニハ草案ニ據リ他ハ明文ニ依ルモノニシテ二說孰レモ有力ナリト雖モ若シ第一說ノ如ク立法者ニ於テ草案ニ依ルノ意ナリトセハ兩者孰レニ於テモ手段ヲ記載スルカ若クハ全ク之ヲ省カサルヘカラサルニ其彼此全ク規定ヲ異ニスルニ依リテ之ヲ觀レハ寧ロ第二說ヲ採用スヘキモノト信ス(二) 然ラハ若シ賄賂等故ラニ之ヲ強フルノ手段ヲ用フルコトナク單ニ依頼又ハ哀願等ニ依リ偽證ヲ囑託シタルトキハ總則ニ依リテ有

罪トスヘキヤ將タ律ニ明文ナキモノトシテ無罪トスヘキヤ曰ク本間ノ場合ニ於テ更ニ總則ヲ適用スルノ精神ナリセハ立法者カ本條特ニ手段ヲ要スルコトヲ記載スルノ理由ナキカ故ニ無論無罪ト決定スヘキモノト信ス(三) 然ラハ特段ナル手段ヲ用ヒタル場合ニ限リテ之ヲ有罪トシ然ラサルモノハ無罪トスルノ理由如何曰ク本條ノ場合ニ於テ單ニ偽證ヲ囑託スルハ人情ノ弱點ニ出サルモノ深ク咎ムルヲ要セスト雖モ賄賂等特ニ人ヲシテ其要求ヲ容レシムルカ如キ手段ヲ用フルニ至リテハ恕スヘカラサルモノアレハナリ

之ヲ要スルニ本條ノ規定ハ本來單ニ沿革ヲ逐フテ總則ノ規定ヲ揭ケ以テ疑問ヲ杜絕セント欲スルニ在リシモ其間更ニ意ヲ用ヒ或教唆ヲ無罪トシ以テ一般總則ノ適用ヲ制限シタルモノニシテ偽證罪ニ對スル教唆罪ヲ規定シタル特別ハ規定ト視ルヘキモノナルカ故ニ總則ト特ニ異ナル點即チ手段ヲ要スル點ニ關スルモノヲ除クノ外之ニ關スル總則ノ適用ハ皆總則教唆ノ原則ニ依ルヘキモノトス了解ニ便ナラシメンカ爲メ一二ノ適用ヲ示サン

一 明文ニ之アル如ク一般ノ教唆ト同シク偽證セシメタルコトヲ要スルカ故

二 縱令偽證ヲ教唆スルモ本犯未タ偽證ヲ爲ササルカ若クハ偽證ヲ爲シタルモ其證言鑑定通譯カ眞實ニ偶中シタルカ若クハ害ヲ生セザリシカ爲メ本犯罪ヲ構成セサルトキハ本條ノ犯人モ亦罪ヲ構成セス其結果トシテ時效モ本犯ト同シク本犯カ偽證ヲ爲シタル時ヨリ始マル

二 例ヘハ汝若シ虛偽ノ陳述ヲ爲ササレハ傍聽席ニ在リテ汝ヲ銃殺セント云フカ如キ強制ヲ加ヘ依リテ偽證ヲ爲サシメタルカ如キ偽證者ノ承諾ヲ阻却スヘキ場合ニ於テハ本犯ハ犯人ノ器械トシテ使用セラレタルモノナルカ故ニ本犯ト本條ノ犯人トノ間ニ教唆被教唆ノ關係ナキノミナラス偽證罪ノ如キ身分ニ依リテ構成スヘキ犯罪ハ身分アル人カ一身ニ附著スル責任又ハ義務ヲ破リタリト云フコトト其所爲トニ依リテ成立スルモノ即チ身分アル者ヲ通シテ行ハルルモノニシテ本問ノ如キ主犯罪ヲ犯スノ意思ナキ場合ニ於テハ客觀的ニ「モ罪ヲ構成スルコトナキカ故ニ本條ノ犯人ハ反對論アルヘシト雖モ」刑法第七十五條ニ依ルモ處斷セラレルコトナシ法ノ缺典トス

三 本條ハ特別ナル條件ノ下ニ於テ一種ノ教唆罪ヲ規定シタルモノニシテ獨

立ナル犯罪ヲ規定シタルモノニ非サルカ故ニ本罪ヲ教唆シ又ハ補助シタル者ハ教唆ノ教唆犯アリトノ説ニ從ヒ本犯ノ犯人ト共ニ直接ニ主犯ニ對スル教唆者ナリトスルニ非スンハ本罪ノ教唆者トシテ處斷スルコトヲ得ス(予ハ一般ノ學說ニ反シ教唆ノ教唆又ハ從犯ハ其レ自身體様ヲ異ニスル一ノ教唆者ナリトノ説ヲ主張ス詳細ハ總則ノ説明ニ讓ルヘキモ其要點ヲ示サハ教唆ハ犯罪ノ原動力ニシテ原動力ハ間接ト直接トヲ問ハサルト同時ニ此原動力ニ加效シタル者ハ主從ヲ問ハス一ノ教唆行為ヲ不可分ニ分擔シタルモノナルカ故ニ教唆ノ行為ニ關連スル者ハ皆一體ノ教唆者ナレハナリ(從犯ノ教唆又ハ從犯ニ付テモ亦同筆法ニ依リ皆從犯タリ)

乙 自首ニ關スル特別處分

第二百二十六條ニ曰ク「此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣言ニ至ラナル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免スト」本場合ノ恩典ヲ受クルカ爲メニハ下ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス「裁判宣告前ナルコト」自首シタルコト是ナリ

第一ノ要素 裁判宣告ニ至ラサルコトヲ要ス

(一)裁判トアルカ故ニ裁判ノ形式ニ依ツサル決定例ハ豫審ノ決定ノ如キハ此中ニ包含セサルコト明カナリ(二)裁判ニハ一審アリ控訴アリ上告アリ茲ニ所謂裁判トハ一審ト上訴トヲ間ハス單ニ裁判ノ宣告ト云フノ義ナルカ(イ)本條ニ相當スル第一佛文章案第二百五十八條ニ *avant la sentence definitive du tribunal devant lequel ils ont fait de leur déclaration* — *en temps utile devant la juridiction d'appel ou devant la cour de cassation* (即チ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル裁判所ニ對シ裁判所ノ確定判決前云云)有效ナル時期ニ於テ控訴又ハ上告裁判所ニミトアリテ確定判決タルコトヲ明カニスルト(ロ)後ニモ説明スルカ如ク本條ハ成ルヘタ危害ヲ未發ニ防止セントノ政策ニ出タタルモノニシテ確定判決前ニ於テハ未タ實害ヲ生スルニ至ラス隨テ免刑ノ恩典ニ依リテ其自首ヲ誘導スルノ利益アルトニ依リテ之ヲ觀レハ確定判決ヲ指スモノタルコト疑フ容レス故ニ縱令裁判宣告ノ後ト雖モ其判決ノ未タ確定セサル間ニ自首シタル者ハ本條ノ特典ニ浴スルモノトス然レトモ確定判決タルコトヲ要スルノミニシテ刑ノ執行アリタル

ト否トハ之ヲ問ハサルカ故ニ裁判確定後ニ自首シタル者ハ未タ其執行ニ至ラサルモ本條ノ特典ニ浴スルコトヲ得サルモノトス

第二ノ要素 自首シタルコトヲ要ス

法律ハ單ニ自首シタルコトヲ要スルノミニシテ自首其モノニ關スル特例ヲ設ケタルカ故ニ總則第八十五條ノ規定ニ依リ進ミテ自己ノ罪狀ヲ訴追官廳人或ハ本條ノ草案ニ裁判所ノ前ニノ文字アリシヨリ豫審又ハ公判判事ニ罪狀ヲ首眼スルモ亦自首ナリト信スル者アルヘシト雖モ是レ認ナリ裁判所ハ訴追官タル檢事ヲ通シタル訴ニ非サレハ事件ヲ受理セス隨テ一私人ノ訴ハ必ス檢事ニ提出スルニ非サレハ無効ナルカ故ニ私人ノ訴ノ一種タル自首モ亦檢事ニ之ヲ爲スニ非サレハ有效ナラサルモノトス但シ檢事ノ手足タル司法警察ハ檢事ト同一ナリトスニ告白シテ自己ヲ處罰シ得ルノ位地ニ置クコトヲ要ス

自首ノ特例ヲ設クルハ之ニ依リテ害ヲ未發ニ防止セシカ爲メニシテ第二百二十六條ト同シテ政策ニ出ツルモノナリ然レトモ實際ニ於テハ此規定アルカ爲メ却テ屢無責任ニ證言ヲ買収セラルル者アリ爲メニ裁判ヲ進行ヲ妨ケ甚シキハ

遂ニ事實ノ真相ヲ攪亂シテ不明ナルニ至ラシムルコト勸カラズ宜シク削除ス
ヘキモノトス

第五節 度量衡ヲ偽造スル罪

度量衡ヲ偽造スル罪ハ第二百二十七條乃至第二百三十條ノ四條ヲ以テ規定セ
ラル

第二百二十七條ニ曰ク「度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上
五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章
ヲ偽造シ又ハ盗用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス」第
二百二十八條ニ曰ク「偽造變造ノ情ヲ知テ度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ
等ヲ減ス」第二百二十九條ニ曰ク「商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタ
ル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス」第二百三十條ニ
曰ク「人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人

ノ利ニ照シ各一等ヲ減スト
度量衡トハ物ノ長短容量輕重等ヲ計測スルノ具ニシテ一私人カ法律ノ規定ニ
從ヒ官許ヲ受ケ製造販賣スルモノヲ謂フ詳細ハ度量衡法ノ規定ニ依リテ之ヲ
知ルコトヲ要ス

第一 第二百二十七條ハ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ノ處分ヲ
規定ス (一) 度量衡ヲ偽造スルトハ不正ニ定規ヲ増減シテ新ニ度量衡ヲ製造ス
ルヲ謂ヒ之ヲ變造スルトハ官ノ檢印ヲ經タル度量衡ノ定規ヲ不正ニ變換スル
ヲ謂フ (二) 販賣トハ佛文第一草案第二百六十條 *extra venditio* *in bonis venditis* 賣
スニ應ジ應ジ不_レ應ジニ相當スルモノナルカ故ニ必スシモ事實上之ヲ他人ニ賣渡ス
コトヲ要セス之ヲ取引ノ目的物トシタルトキハ罪ヲ構成スルモノト信ス (三) 法
律ハ偽造又ハ變造シテ販賣シタルコト即チ自ラ偽造又ハ變造シ若クハ他人ヲ
シテ偽造又ハ變造セシメタルコトト之ヲ賣リ又ハ販賣ノ目的トシタルコトト
ノ二要素ヲ具備スルコトヲ要スルカ故ニ單ニ偽造又ハ變造シタルニ止マルト
キハ未遂犯トシテ無罪又共犯ニ非サル者ノ作製シタルノ情ヲ知リテ販賣若ク

ハ所有シタルトキハ第二百二十八條又ハ第二百二十九條ノ範圍ニ屬ス
 第二 第二百二十八條ノ情ヲ知リテ販賣シタル者ノ處分ニシテ前條ニ附隨ノ規定トス 本條知情即チ通謀ノ事實ナキコトヲ要スルカ故ニ偽造又ハ變造若クハ其者ト通謀シテ販賣行為ノミヲ分擔シタルニ過キタルトキハ前條ノ正犯トス

第三 第二百二十九條ハ商賈農工定規ヲ増減セタル度量衡ヲ所有シ又ハ使用シテ利ヲ得タル者ノ處分ヲ規定ス (一)所有トハ猶ホ所持ト云フカ如シ單純ナル占有ヲモ之ヲ包含ス然レトモ偽造變造又ハ販賣スル場合ニ於テハ毎ニ必要上之ヲ占有スルノ事實アルモ拘ラス本條特ニ所持ノ行為ヲ罰スルノ規定ヲ設クルカ故ニ本條所謂所有ハ此等ノ場合以外ニ於テ所持スルコトヲ意味スルモノトス (二)所有トアリテ單ニ所有ノ事實ノミヲ罰スルカ如キモ知リテ之ヲ所有スルニ非サレハ罪ヲ構成セサルモノトス (三)定規ヲ増減シタル度量衡ノ何モノタルヤニ付テハ二箇ノ見解アリ單ニ偽造變造ノ度量衡ト云フコトヲ意味スルモノナリトスルノ説ト偽造變造ノ度量衡ハ勿論已ニ廢棄ニ屬シタル舊度量衡

ヲモ包含スルモノナリトスル説是ナリ佛文第一章案第二百六十二條ニ *objet* *seulement* *dépendant* *de* *deux* *pois* *ou* *de* *pauses* *mesures* (即チ偽造變造ノ度量衡ヲ所持スル者)トアルト所謂定規ヲ増減スルトハ偽造又ハ變造スルノ義ニ外ナラザルトニ依リテ之ヲ觀レハ偽造變造ノ度量衡ト云フコトヲ説明的ニ掲ケタルモノニ過キサルモノニシテ前説ヲ以テ至當トスヘシ(四)商賈農工トアルカ故ニ商賈農工ニ係ラサルトキハ本罪ヲ構成セス蓋シ之ヲ使用スルノ危險アリト推測セラルルカ故ナラン(五其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス是レ亦二様ノ見解アルヘシ「詐欺取財ヲ以テ論ストハ注意ノ法文ニ過キス隨テ此行為アリタル時ハ第百條ニ依リ前項ノ罪ト數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノナリトスルノ説ト偽造變造ノ度量衡ヲ所有スルハ詐欺取財當然ノ手段ナルカ故ニ詐欺取財ノ行為アリタルトキハ所有ノ行為其中ニ包含セラルヘシトノ規定ナリトスルノ説是ナリ前説ハ佛文草案第二百六十二條ニ *Sans* *préjudice* *des* *peines* *de* *escroquerie*, *s'il* *l'a* *lieu* (但シ詐欺取財アリタルトキハ其刑ヲ加フルコトヲ妨クス)トアルニ相當スルカ故ニ根據ナキニ非スト雖モ之ニ從フトキハ法

文ヲ無用ナラシムルノ結果ヲ生スルカ故ニ予ハ後説ヲ採用ス(從重論ノ規定ト少シク趣ヲ異ニスルモノアリ) 第四 第二百三十條ハ人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造又ハ變造シタル者ノ處分ヲ規定ス 本條モ亦種種ノ問題ヲ生スル困難ナル規定ナリ(一)本條囑託シタル犯人ハ第二百二十九條ノ犯人カ第二百二十七條ノ犯人カ將タ二者共ニ之ヲ含ムカ佛文第一草案第二百六十二條ノ規定ニ依レハ本條ハ第一項タル前條ニ對シ第二項トシテ附隨セシモノナルカ故ニ前條ニノ專屬スト謂フコトヲ得ヘキカ如シト雖モ草案ノ規定ト異ナリ明カニ獨立ノ法條トシテ規定セラルルト同時ニ草案ニ於テハ「商賈工匠等ヨリ囑託ヲ受ケ云云」トアリタルモ明文ニ於テハ廣ク「人ノ囑託」トアリテ囑託者ノ何人タルコトヲ指定セサルニ依リテ之ヲ觀レハ第三ノ見解ヲ採ルヘキモノトス(二)囑託シタル犯人ノ利トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ詳言スレハ「先ツ第一ニ依頼者カ販賣ノ目的ヲ以テ偽造變造セシムル者タリシトキハ第二百二十七條ノ犯人ノ利ニ照シ所有ノ目的ヲ以テ偽造變造セシムル者タルトキハ第二百二十九條ノ犯人ノ利ニ照スヘキモノニ

シテ必スシモ偽造又ハ變造スル者ニ於テ依頼者ノ目的如何ヲ知ルコトヲ要セサルカ將タ犯人ニ於テ之ヲ知ルコトヲ要シ隨テ若シ販賣ノ目的ヲ以テスルモノナリト信シタルニ所有ノ目的ヲ以テスル者タリシトキ又ハ所有ノ目的ヲ以テスル者ナリト信シタルニ販賣ノ目的ヲ以テスルモノタリシトキハ第二百二十九條ノ犯人ノ利ニ照スヘキヤ予ハ簡單ニ第二説ヲ主張ス(但シ反對論トシテハ之ヲ偽造變造スルノ行為ハ其レ自身第二百二十七條ノ罪若タハ第二百二十九條ノ罪ヲ發生セシムヘキコトヲ豫想スルモノニシテ恰モ群衆ノ中ニ發見スルカ如ク犯人ハ何レカノ罪ニ加效セントスル包括的ノ意思ヲ有スルモノナルカ故ニ實際加效シタル犯人ノ罪ニ加效スルノ意思アリト謂ハサル可カラスト主張スルコトヲ得(三)所有ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ヲ囑託シタル者カ之ヲ使用シテ詐欺取財ヲ犯シタルトキハ單ニ第二百二十九條第一項ノ利ニ照シテ一等ヲ減スヘキヤ將タ第二項ノ利ニ照シテ一等ヲ減スヘキヤ本問詐欺取財ハ不正ノ度量衡所持當然ノ結果換言スレハ所持ハ詐欺取財自體ノ準備ニシテ所持ヲ爲メ偽造變造スルノ意思ハ當然詐欺取財ノ所爲ニ加效スルノ意思ナリト謂

ヲコトヲ得ヘキカ故ニ後段ニ決スヘキモノト信ス但シ亦有力ナル反對論アルコトヲ想像ス
尙ホ度量衡ニ關シテハ本節ノ外度量衡法第十五條ニ取締ニ關スル特別ノ規定アリ就テ參照スヘシ

第六節 身分ヲ詐稱スル罪

法律ハ第八節(身分ヲ詐稱スル罪)ノ標題ノ下ニ於テ二箇ノ犯罪即チ(一)官署ニ對シテ屬籍身分ヲ詐稱スル罪及ヒ(二)官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル罪ヲ規定セリ二者共ニ之ヲ公ノ罪トスルハ一ハ官署ニ對シ他ハ官權ヲ侵害シテ行ハルルカ故ナリ

第一款 官署ニ對シテ屬籍、身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條ニ曰ク「官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト

本罪ノ構成要素ハ下ノ四トス(一)官署ニ對スルコト(二)屬籍身分氏名年齢職業ナルコト(三)文書又ハ言語ヲ以テ詐稱スルコト(四)知リテ之ヲ詐ルノ意思アルコト是ナリ

第一ノ要素 官署ニ對スルコトヲ要ス

(一)官署ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ一私人ニ對スルモノハ本罪ヲ構成セス然レトモ單ニ「官署」トアルカ故ニ行政官廳ニ對スルト司法官廳ニ對スルト將タ軍衙ニ對スルトヲ問ハス(二)官署トアルカ故ニ官吏ヲ含マサルカ如シト雖モ官吏ハ官署ノ機關ニシテ之ニ對スルハ官署ニ對スルモノナルカ故ニ當然罪ヲ構成ス

第二ノ要素 屬籍身分氏名年齢職業タルコトヲ要ス

(一)屬籍屬トハ華土族平民等種屬ノ區別ヲ云ヒ籍トハ身之所依曰籍カ故ニ士族籍平民籍兵籍本籍原籍寄留籍等凡テ人事上一身ノ歸屬スル所ヲ示スノ語ナリト雖モ茲ニハ屬ノ分離スルカ故ニ本籍原籍寄留籍等住所ニ關スルモノヲ指ス屬籍ハ或ハ族籍ト曰フ彼ノ夫ニ所謂身分ヲ以テ種屬ヲ指スモノナリト謂フカ如

キハ是レ「因テ」ヲ譯シテ身分ト云フ近來ノ譯語ヲ以テ之ヲ解スルモノ妄モ亦蓋
 矣(二)身分トハ日主家族夫妻親子兄弟親族等人事上ノ位地ヲ謂フ(三)氏名氏ハ家
 ニ屬スル公ノ名稱姓ノ區分ニシテ名ハ一人ニ專屬スルノ名稱ナリ(四年齡トハ
 生年月日若クハ出生ノ月ヨリ現今マテノ時間ノ數ニシテ五職業トハ之ニ依リ
 テ生活スル所ノ常業ヲ謂フ
 右ニ掲クル所ノ數箇ノモノ皆自己ノ身上ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ他人ノ
 身上ニ關スルモノハ縱令父母後見人等幼者ノ爲メニ之ヲ言フノ義務アル者カ
 幼者ニ關シテ之ヲ詐ルモ罪ヲ構成セザラン亦法ノ缺典歟
 又曰ク右數箇ノモノ其ノ一ヲ詐レハ皆直チニ罪ヲ構成ス隨テ二箇以上ヲ詐ルト
 キハ理論上數罪ヲ構成スヘキモノナルモ連續犯ノ觀念ト同一ニ便宜ノ爲メ一
 罪ト看做スヘキモノトス
 屬籍身分氏名年齡職業ニ限ルカ故ニ此外ノモノ例ヘハ財産ノ有無又ハ特別ノ
 資格ニ關スルモノハ他罪ヲ構成スルハ格別本罪ヲ構成セス
 第三ノ要素 文書又ハ言語ヲ以テ詐稱シタルコトヲ要ス

言語又ハ文書タルコトヲ要スルカ故ニ形容等ヲ以テ詐ルトキハ他罪ヲ構成ス
 ルハ格別本罪ヲ構成セス
 第四ノ要素 知リテ之ヲ詐ルノ意思アルコトヲ要ス
 知リテ之ヲ詐ルノ意思アルヲ以テ足レリトス蓋シ取締法ニ關スルカ故ニ其レ
 自身害ヲ意味スレハナリ
 本問ニ關シ古來有名ナル一問題アリ曰ク犯罪人カ自己ノ罪跡ヲ隱蔽センカ爲
 メ裁判所又ハ其他ノ官署ニ對シテ氏名ヲ詐稱シタルトキハ本罪ヲ構成スヘキ
 ヤ否ヤ是ナリ予ハ有罪ト確信ス蓋シ反對論ヲ主張スル者ハ犯罪人ハ自己ノ罪
 狀ヲ自白スルノ義務ナシ又ハ辯護權アリト云フコトヲ理由トスト雖モ法律ハ
 罪跡ヲ蔽フカ爲メニ罪ヲ犯スコトヲ許サス否論者ノ語ヲ以テ正當ナリトセハ
 第百三十九條及ヒ第二百九十六條ノ如キ最モ不當ノ法制ト謂ハサルヘカラサ
 レハナリ
 處分ニ付キ輕キ罰金刑ヲ科スルニ止マルハ單ニ行政上ノ取締ヲ害スルノミニ
 シテ罪情輕微ナレハナリ

第二款 官職、位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾、徽章

若クハ内外國ノ勳章ヲ借用スル罪

第二百三十二條ニ曰ク「官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾、徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト

本罪ノ構成要素ハ前ト大差ナキ故ニ之カ説明ヲ省略シ特種ノ點ニ付テノミ説明スヘシ

一 官職位階 (イ)官職官トハ國家爲政ノ機關トシテ任官セラレヘキ者ノ有スヘキ名稱大臣次官參事官秘書官書記官何省局ト云フカ如シ職ト云官ニ附著スル職務ノ名稱文書課長秘書課長會計課長ト云フカ如シ(ロ)位階トハ從八位以上正一位マデノ階級ヲ謂フ爵及ヒ勳ヲ包含セス
二 官ノ服飾、徽章若クハ内外國ノ勳章 (イ)官ノ服飾、徽章トハ官ニ屬スル人又ハ物タルコトヲ表示スルカ爲メ法令ニ依リテ制定セラレタル服制其裝飾及ヒ紀章、故章等ヲ謂フ(ロ)勳章トハ功績アル者ヲ賞スル爲メニ設ケタル徽章ニシテ

内外國ノ別アリ

三 借用 資格ヲ冒シテ使用スルヲ謂フ外國ノ勳章ハ允許ニ依リテ始メテ佩用ノ資格ヲ具フルモノナルカ故ニ縱令其贈與ヲ受クルモ允許ヲ得スシテ使用シタル者ハ借用タリ

四 詐稱 借用ト共ニ公然ノ文字ナキカ故ニ公然タルコトヲ要セストノ議論ヲ費ス者アリ意味ヲ爲サス蓋シ詐稱借用共ニ他人ヲ欺クカ爲メ他人ニ對シテ行ハルモノニシテ詐欺ハ其レ自身公然ノ意味シ秘密ノ詐欺ハ想像スルコトヲ得サレハナリ

第七節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

公選ノ投票ヲ偽造スル罪ハ第九節ニ規定スル所ニシテ第二百三十三條乃至第二百三十六條ヨリ成ル

第二百三十三條ニ曰ク「公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス第二百三十四

條ニ曰ク「賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二
月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」第二百三
十五條ニ曰ク「投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シ
タル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス」第二百三十六條ニ曰ク「圖書ヲ造リ投票ノ結果ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其
他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス」ト

公選トハ法律規則ヲ以テ規定セラレタル公職ニ從事スヘキ者例ヘハ國會、府縣
會市町村會等ノ議員又ハ市町村ノ吏員又ハ所得稅調查委員等ヲ選舉スルコト
ヲ謂ヒ投票トハ之ニ依リテ選舉權ヲ行「便シ以テ其意思ヲ發表スルモノヲ謂
フ

第一 第二百三十三條ハ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ノ處分ヲ規定
ス。法律ハ偽造トアリテ變造ヲ規定セサルカ故ニ變造シタル者ハ法ノ缺點ト
シテ無罪タリ其數ヲ増減スルトハ例ヘハ已ニ投入セラレタル投票ヲ竊取シ若

クハ其投票ニ無効タルヘキ記載ヲ爲シ因リテ之ヲシテ無効ナラシメ又ハ締切
以後ニ於テ私ニ投票ヲ追加スルカ如キヲ謂フ

第二 第二百三十四條ハ賄賂ヲ授ケテ投票ヲ爲サシメ又ハ之ヲ受ケテ投票ヲ
爲シタル者ノ處分ヲ規定ス。(一)賄賂トハ公平ニ執行スヘキ職務ニ關スル請託
ヲ條件トシテ授受スル所ノ或利益ヲ謂フ詳細ハ便宜ノ爲メ官吏收賄罪ノ說
明ニ譲ル(二)法律ハ賄賂ヲ以テ又ハ賄賂ヲ受ケテトアリテ已ニ授受シタルコト
ヲ要スルカ故ニ單ニ贈遺ヲ約シテ投票ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキハ特別罪
ヲ構成スルハ格別本罪ヲ構成セス(三)法律ハ投票ヲ爲サシメ又ハ爲シタルコト
ヲ要スルカ故ニ已ニ賄賂ヲ授受シタルモ未タ投票ヲ爲ササルトキハ又本罪ヲ
構成セス(四)投票ヲ爲ス者ハ勿論選舉者ナルカ故ニ賄賂ヲ受タル者ハ必ズ選舉
者タルコトヲ要スト雖モ投票ヲ爲サシメタル者ハ何人タルコトヲ問ハサルカ
故ニ賄賂ヲ授タル者ハ必ズ被選舉人タルコトヲ要セス

第三 第二百三十五條ハ投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者カ第二百三十三
條ノ罪ヲ犯シタル場合ノ處分ヲ規定ス。身分ニ依ル加重刑ヲ規定セタルモノ

ナリ之ヲ加重スルハ犯スニ易ク防クニ難キト同時ニ職務ニ附屬シタル信用ニ違背スレハナリ
第四 第二百三十六條ハ投票ノ結果ヲ報告スヘキ調査ノ記載ヲ偽リタル者ノ處分ヲ規定ス 無形ノ文書偽造罪ヲ規定シタルモノナリ刑ノ更ニ重キヲ加フルハ其文書カ官文書ト同視スヘキ程ノモノナルノミナラス易犯難防ト背信ノ度前條ニ比シテ更ニ重キヲ加フルモノアレハナリ
以上之ヲ要スルニ刑法カ選舉ニ關スル罪ヲ規定スルコト甚タ粗ナリ宜シク明治二十二年法律第三號衆議院議員選舉法第八十九條乃至第五百條明治二十三年法律第四十號衆議院議員選舉法則明治二十三年法律第六號府縣會議員選舉規則第五十九條以下第六十七條明治二十三年法律第四十一號府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法則補則ヲ適用スル規定明治三十二年勅令第三百七十七號府縣會議員及郡會議員選舉ニ關スル規則明治二十三年法律第三十九號市町村會議員選舉規則等ヲ參照スヘシ

第五章 健康ヲ害スル罪

茲ニ法律所謂健康ヲ害スル罪トハ一般公衆ノ健康ニ關スル義ニシテ特定シタル一人ノ健康ヲ害スル罪ノ義ニ非ス一人ノ健康ヲ害スルモノニ付テハ第三編別ニ規定アリ
法律カ茲ニ公衆ノ健康ニ關スル罪トシテ規定スルモノハ下ノ六箇トス曰ク阿片烟ニ關スル罪「飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪」傳染病豫防規則ニ關スル罪「危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪」健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪「私ニ醫業ヲ爲ス罪」是ナリ

第一節 阿片烟ニ關スル罪

聞ク阿片烟ヲ吸食スルトキハ神心恍トシテ其快言フヘカラス而シテ一タビ之ヲ吸食スレハ必ス慣習ヲ成シ其度ヲ高ムレハ遂ニ人ヲ廢スト然ラハ之ヲ吸食スルハ實ニ自ラ害スルノミナラス亦人ヲ殺シ延テ國家ヲ滅亡セザルモノナ

ヲ人或ハ之ニ關スル或刑ハ酷ニ失スト曰フト唯モ予ハ却テ其刑ノ輕キヲ歎ス
見ヨ蠻人將ニ我ト圍隙ヲ接セシトス豈ニ危殆ナラズヤ
第二百三十七條ニ曰ク阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有
期徒刑ニ處ス第二百三十八條ニ曰ク阿片烟ヲ吸食スル器具ヲ輸入シ及ヒ製
造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス第二百三十九條ニ曰ク税關官吏情
ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加
フ第二百四十條ニ曰ク阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕
懲役ニ處ス人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ第二百四十一條ニ
曰ク阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス第二百四十二
條ニ曰ク阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一年以上一年以
下ノ重禁錮ニ處ス下
阿片烟ノ何物タルヤハ予之ヲ知ラス知ラズン法ヲ適用スルヲ得ス宜シク裁
判所警察署等之ヲ知ルノ必要アルヘキ官衙ニ其見本ヲ備附クヘキモノトス而
シテ本罪ニ關スル規定ノ大部分ハ已ニ説明シタル所ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ

符ルカ故ニ本罪ニ特別ナル點ノミヲ説明スヘシ
第一 第二百三十七條ハ阿片烟其モノヲ第二百三十八條ハ其器具ヲ輸入シ製
造シ又ハ販賣シタル者ノ處分ヲ規定ス説明ヲ要セス
第二 第二百三十九條ハ情ヲ知リテ二者ヲ輸入セシメタル税關吏ノ處分ヲ規
定ス知情トハ通常共謀セサル場合ニ用フルノ語ナレトモ本條ニ於テハ勿論
之ヲ包含ス又單ニ知情トアルカ故ニ默許モ亦之ヲ包含ス

第三 第二百四十條第一項ハ吸食ノ爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ノ處分ヲ
規定シ第二項ハ引誘シテ吸食セシメタル者ノ處分ヲ規定ス(一)房屋ヲ給與シ
テ圖利スル者トハ清國所謂烟館ノ如キモノナラン圖利スルヲ要スルカ故ニ圖
利セサルトキハ單ニ第二百四十一條ノ從犯タルノミ(二)引誘ハ猶ホ誘導ノ如シ
他人ヲ烟館ニ誘導シテ共ニ吸食スルノ類ヲ謂フ故ニ單ニ吸食ヲ教唆スルノ所
爲ハ第二百四十一條ノ教唆犯タルニ過キス圖利セサルモ前者ト同一ニ處斷ス
ル所以亦此ニ職由ス蓋シ青樓ニ誘フ者ハ青樓ヲ説ク者ト道德上ノ罪狀相同シ
ケレハナリ(三)共ニ從犯及ヒ教唆ノ或體様タリト雖モ特別ノ規定ナルカ故ニ獨

立ノ犯罪トシテ他ノ適用ヲ試ムルコトヲ要ス
 第四 第二百四十一條ハ之ヲ吸食シタル者ノ處分ヲ規定ス 說明ヲ要セス
 第五 第二百四十二條ハ阿片烟及ヒ其器具ヲ單ニ所有シ又ハ受寄シタル者ノ
 處分ヲ規定ス (一)所有ト受寄ヲ別ツカ故ニ所有ハ自己ノ爲メニ所持スルコト
 ヲ受寄ハ他人ノ依頼ヲ受ケ他人ノ爲メニ所持スルコトヲ謂フモノトス (二)之ヲ
 竊取セ又ハ拾得シテ隱匿シタル場合ニ於テハ單ニ本條ノ罪ノミヲ構成スルヤ
 將タ竊盜及ヒ遺失物隱匿罪ヲモ同時ニ構成スルヤノ問題ヲ生ス本條規定ノ精
 神ニ依レハ阿片烟ハ所有權ノ目的タルコトヲ得サルモノナルカ故ニ本罪ノミ
 ヲ構成スト決セサルヘカラス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

飲料ノ淨水ハ一私人ニ屬スルモノト公衆ニ屬スルモノトアリ一般公衆ノ健康
 ニ關スル犯罪ノ一種ナルカ故ニ茲ニ所謂飲料ノ淨水ハ後者ヲ謂フモノトス
 第二百四十三條ニ曰ク人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ用フルコト能ハサ

ルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下
 ノ罰金ヲ附加ス第二百四十四條ニ曰ク人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質
 ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三
 十圓以下ノ罰金ヲ附加ス第二百四十五條ニ曰ク前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病
 又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スト
 第二百四十三條ハ飲料ニ關スル水道池水井水等ニ泥土塵芥等ヲ投シ又ハ其水
 底ヲ攪亂シテ之ヲ汚穢シ因リテ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル所爲ヲ規
 定シ第二百四十四條ハ劇藥毒藥等凡テ人ノ疾病ヲ醸スヘキ有害ノ物品ヲ淨水
 中ニ投入シ因リテ水質ヲ不良ナラシメ又ハ腐敗セシメタル所爲ヲ規定ス別ニ
 説明スヘキコトナシ
 第二百四十四條ノ罪ヲ犯シ因リテ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル場合ニ於テ之ヲ
 毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從ヒテ處斷スル所以ハ人ノ身體ニ害ヲ生スヘ
 キ所爲ヲ爲シタルヨリ當然發生シタル結果ニシテ恰モ人ヲ毆打シテ疾病死傷
 ニ致シタルト同一ナレハナリ但シ初ヨリ人ヲ殺スノ意思ヲ以テシタルトキハ

純然タル殺人罪トノ數罪俱發トス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

本罪ハ第二百四十六條乃至第二百四十九條ヲ以テ規定セラルル。令ニ依リテハ
第二百四十六條ニ曰ク「傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶
ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處
シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス」第二百四十七條ニ曰ク「船長自ラ前
條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ」第
二百四十八條ニ曰ク「傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ
出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰
金ニ處ス」第二百四十九條ニ曰ク「職類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ職
類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五
十圓以下ノ罰金ニ處ス」
何レモ取締法違犯ノ行爲ナルカ故ニ其刑罰極テ輕微ナリト雖モ亦一種ノ輕

罪タルカ故ニ上陸運搬又ハ他所ニ出ス等皆有意ノ行爲ナルコトヲ要ス其他ハ
明文瞭然更ニ說明スヘキ點ナシ但シ本節ノ規定ハ豫防規則ニ附隨シタルモノ
ナルカ故ニ傳染病豫防ニ關スル諸般ノ特別法即チ明治十八年十一月第三十四
號布告種痘規則明治二十九年三月法律第六十號獸疫豫防法明治三十年四月法
律第三十六號傳染病豫防法明治三十二年二月法律第十九號海港檢疫法等ヲ參
看スルコトヲ要ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪

本罪ハ第二百五十條乃至第二百五十二條ヲ以テ規定セラルル。令ニ依リテハ
第二百五十條ニ曰ク「官許ヲ得シテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル
者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス」若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創
設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス」第二百五十一條ニ曰ク「官許ヲ得
テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則
ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス」第二百五十二條ニ曰ク「前二條

ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルトモ、
危害ヲ生スヘキ物品ト健康ヲ害スヘキ物品トノ何モノタルヤヲ明カニスルコトヲ要スルノミ他ハ説明ヲ要セスシテ明カナリ
所謂危害品ト健康ヲ害スヘキ物品トノ區別如何法文之ヲ明示セサルカ故ニ其區別稍明瞭ナラスト雖モ(一)他ノ特別法明治六年八月九日第二百九十二號布告明治十七年十二月二十七日布告第三十二號爆發物取締罰則等ニ於ケル用例ニ依レハ危害若クハ危害品ナル文字ハ常ニ火藥其他ノ爆發物等一朝之ヲ過ツトトキハ一時ニ多數ノ人命ヲ傷害スルノ結果ヲ生スヘキ物品ニ關シテノミ使用セラルト(二)第二百五十條第一項ト第二項トハ其刑罰著シク相違ハ其所謂危害品トハ重大ナル損害ヲ生スヘキ物タルコトヲ表示スルトニ依リテ之ヲ觀レハ危害品トハ火藥其他ノ爆發物等凡テ之ヲ製造スルニ當リ一朝其過失アルトキハ一時ニ多數ノ人命ヲ物質的ニ破壞スルノ危險アルヘキ物品ヲ謂ヒ健康ヲ害スヘキ物品トハ之ヲ製造スルニ當リ著シク惡臭ヲ放チ又ハ空氣ヲ腐敗セシ

ムル等其製造カ衛生ヲ害スヘキ物品ヲ謂フモノト信ス(製造カ危害ヲ生シ健康ヲ害スヘキ物品タルノ點ニ注意スルコトヲ要ス)

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

本罪ハ第二百五十三條乃至第二百五十五條ヲ以テ規定セラル
第二百五十三條ニ曰ク人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス第二百五十四條ニ曰ク規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス第二百五十五條ニ曰ク前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルト

左ノ二點ヲ説明スルヲ以テ足レリトス
第一(一)人ノ健康ヲ害ス可キ物品 飲食物ニ關スルカ故ニ之ヲ服用スルトキハ人身ヲ傷害スルノ結果ヲ生スヘキ總テノ有害物例ヘハ奸商カ葡萄酒ノ藥料ニ用アル「アニリン」色素ノ如キモノヲ謂フ(二)毒藥劇藥 明治二十五年內務省令

第二號ニ掲クル所ニ依リテ其一斑ヲ知ルト同時ニ法律ハ其數ヲ限定セサルカ故ニ右省令ノ外尙ホ毒藥劇藥ト稱シ得ヘキモノアルコトヲ忘却セサルヲ要ス
 第二 第二百五十三條 第二百五十四條 何レモ其刑罰金ニ止マルハ營利ノ爲メ他ヲ顧ミサルヨリ生シタルモノナルカ故ニシテ其因リテ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル場合ニ於テモ尙ホ過失殺傷ノ例ニ照シテ處分スルニ過キサルハ偶然ニモ人ヲ害スルノ意思ナキカ故ナラン然レトモ是レ甚タ薄弱ナル理由タリ一方ニ於テ有害物タルコトヲ知リテ之ヲ使用スルハ其レ自身人ヲ害スルノ意思アリト謂ハサルヘカラサルノミナラス他ノ一方ニ於テ彼等奸商ハ實ニ職業ニ對スル信用ヲ害スルモノタリ宜シク嚴刑ヲ以テ之ヲ待ツヘキナリ
 尙ホ第二百五十四條ニ付テハ明治二十二年三月法律第十號藥品營業並ニ藥品取締規則及ヒ明治三十年三月法律第二十七號阿片法等ヲ參看スヘシ

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

醫ハ仁術ナリト雖モ人命ノ關スル所慎重マシムハアルヘカラス故ニ法律ハ豫メ

允許ヲ得タル者ニ非スンハ之ヲ業トスルコトヲ許アス是レ本節ノ規定アル所
 以トス

第二百五十六條ニ曰ク「官ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス」第二百五十七條ニ曰ク「前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス」

本罪ニ付テモ亦左ノ三點ヲ説明スルヲ以テ十分トス

第一 醫業ヲ爲シタル者 (一) 疾患ヲ治療スルコト之ヲ醫ト謂フ二種アリ人類ニ關スルモノ及ヒ獸類ニ關スルモノ是ナリ(人類ノ疾患ヲ治療スル者之ヲ醫師ト謂フ獸類ノ疾患ヲ治療スル者之ヲ獸醫ト謂フ)免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ニ付テハ明治二十三年法律第七十六號第十條ニ別ニ制裁アルカ故ニ茲ニ所謂醫業トハ人類ノ醫師即チ醫師ノ爲スヘキコトノミヲ限ルモノニシテ内科外科眼科產科齒科等ハ勿論入齒齒拔口中療治療接骨等ノ術モ亦明治十八年內務省甲第七號達ニ依リ此中ニ入ルヘキモノトス然レトモ鍼灸術ハ明治十八年內務省甲第十號達ノ趣旨ニ依リ此中ニ入ラサルト同時ニ產婆モ亦明治三

十二年七月十八日勅令第三百四十五號ニ特別ノ規定アリテ此中ニ入ラサルモノタリ治療ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ醫師ニ代リテ患者ヲ診察シ以テ其病狀ヲ醫師ニ報告スル代診又ハ醫師ノ命令ヲ受ケテ藥劑ヲ配合スル藥劑師ノ如キ診察ノミ又ハ調藥ノミヲ爲ス者ハ茲ニ所謂醫藥ヲ爲ス者ニ非ス(一)之ニ依リテ生活スル所ノ業務通常之ヲ稱シテ業ト謂フ茲ニ所謂醫業トハ醫術ヲ生業トスルノ義ナルカ曰ク文字ノ上ニ於テハ此ノ如キモノアリト雖モ茲ニ所謂醫業トハ佛國法ノ規定ヲ模倣シテ立案セラレタル(二)氏佛文第一章案第二百八十九條「toute personne qui habituellement aura exercé médecine」即チ常ニ醫業ヲ行ヒタル者ヲ意譯シタルモノニシテ二回以上醫術ヲ慣行スルコトヲ意味スルモノナルカ故ニ縱令醫ヲ生業トスルモ未タ曾テ一回モ人ノ疾患ヲ治療セタル者ハ醫業ヲ爲シタル者ト謂フヲ得タルト同時ニ縱令之ヲ生業トセタルモ二回以上之ヲ行ヒ慣行ト認ムヘキ事實アルトキハ醫業ヲ爲シタルモノトス蓋シ此規定ヲ設ケタルノ趣旨ハ官許ヲ得シテ私ニ醫ヲ開業スルコト即チ醫業ヲ取締ラントニハ非スシテ屢ニ醫術ヲ行フノ危險ヲ防遏セントニ在レハナリ屢ニ之ヲ行ヒタル

ルコト即チ慣行シタルト認ムヘキ狀況ニ達セタルコトヲ要スルカ故ニ二回又ハ三回ニ及フト雖モ其間著シク時ヲ經又ハ場合ヲ異ニスル等慣行ト認ムヘカラサルモノハ罪ヲ構成セス然レトモ苟モ慣行ノ行爲アリト認ムヘキ事實アルトキハ其治療ヲ受ケタル者ノ一人ナルト數人ナルト又ハ附料ヲ授受シタルト否トハ罪ノ構成ニ影響ヲ有セス

第二 治療ノ方法ヲ誤リ因リテ人ヲ死傷ニ致セタル者 治療ノ方法ハ多少ノ注意ヲ施サハ之ヲ誤ラサルコトヲ得ルモノト有數ノ國手カ如何ナル注意ヲ用フルモ尙ホ且ツ避クヘカラサルモノトアリ茲ニ所謂治療ノ方法ノ誤トハ前者ノ場合ニ限ルカ將タ後者ノ場合ヲモ尙ホ之ヲ含ムカ曰ク普通ノ場合即チ官許ヲ得タル者ノ爲シタル行爲ニ係ルトキハ前者ノ場合ニノミ限リ責任ヲ生スヘシト雖モ本場合ニ於テハ後者ノ場合ニ於テモ尙ホ責任ヲ生スヘキモノナルカ故ニ前後孰レヲモ包含スルモノトス蓋シ普通ノ場合ト異ナリ危險ノ生スヘキ行爲トシテ國法ノ禁止シタル行爲隨テ避ケサルヘカラサル行爲ナルニモ拘ラヌ取テ之ヲ犯シタルヨリ生シタルモノナルカ故ニ如何ナルモノト雖モ避クヘ

カラサル結果ナリト謂フヲ得サレハナリ

第六章 風俗ヲ害スル罪

風俗ヲ害スル罪トハ善良ナル風俗又ハ習慣ニ反スル罪換言スレハ社會の公德ヲ破壞スル罪ヲ謂フ法律ハ此表題ノ下ニ於テ三種ノ犯罪ヲ規定セリ曰ク公然猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物件ヲ陳列販賣スル罪賭博及ヒ富籤ニ關スル罪信教ニ對スル罪是ナリ

第一節 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物件ヲ

陳列販賣スル罪

甲 公然猥褻ノ所行ヲ爲ス罪

第二百五十八條ニ曰ク公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト

本罪ヲ構成スルニハ下ノ要素ヲ具備スルコトヲ要ス一猥褻ノ所行タルコト二公然之ヲ爲シタルコト三公然之ヲ爲スノ意思アルコト是ナリ

第一ノ要素 猥褻ノ所行タルコトヲ要ス

(一) 猥褻トハ佛語所謂 Poshuニ反スルモノノ義ナルカ故ニ淫事ニ關シ見ルニ堪ヘサルコトヲ謂フ其果シテ淫事ニ關シ見ルニ堪ヘサルコトナリヤ否ハ行爲ノ當時ニ於ケル一般ノ慣習公ニ認メラレタル慣習ノ義ヲ標準トシテ決スヘキ法律上ノ問題トス之ヲ事實ノ問題ナリト云フハ謬ナリ蓋シ事實ハ具體の物理上ノ現象ニ關シ法律ハ抽象の理想上ノ判斷ニ關スレハナリ故ニ昨ハ猥褻ト看做シタルモノ今ハ却テ普通ノモノトシ昨ハ普通ノモノト看做シタルモノ今ハ却テ猥褻ノモノトスルコトアリ蓋シ吾人ノ道義觀念ハ時ト場所トニ依リテ變轉ヲ經移スルモノナレハナリ(二) 猥褻ノ所行トアリテ犯人ノ行動カ直接ニ猥褻ト評定セラルヘキ性質ヲ有スルコトヲ要スルカ故ニ言語又ハ文書ヲ以テ猥褻ナル事項ニ關スルコトヲ發表スルモ茲ニ所謂猥褻ノ所行ニ非ス(三) 法律ハ單ニ猥褻ノ所行タルコトヲ要スルノミニシテ其事ノ本來不正タルヘキヲ要セサルカ故ニ私ニ之ヲ爲ストキハ正當ノモノタルヘキ夫婦間ノ行爲ト雖モ尙ホ本罪ノ所行タルコトヲ得ヘキモノトス

第二ノ要素 公然之ヲ爲シタルコトヲ要ス

公然トハ「*in public*」氏佛文第一章案第二百九十一條「*dans un lieu public or accessible a la vue du public*」即チ公ノ場所又ハ公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ノ義ナルカ故ニ道路公園等公衆ノ自由ニ往來スヘキ場所ハ勿論總令自宅ノ一室又ハ庭内ト雖モ現ニ他人ノ面前ニ於テ若クハ往來又ハ隣家ヨリ他人ノ目撃スルコトヲ得ヘキ場所ニ於テスルモノハ皆公然トス其適用ノ一トシテ添車添船乗合馬車内等モ亦道路ト同シク公ノ場所ナルカ故ニ此等ノ内ニ於テスルモノハ總令現ニ他人ノ之ヲ目撃スル者ナキモ亦茲ニ所謂公然タルヲ失ハス而シテ法律カ其之ヲ要件トスル所以ハ是レ淫事ニ關スル事ハ必スシモ其レ自身不徳ノ行爲ニ非サルカ故ニ私ニ之ヲ爲スニ於テハ或ハ正當若クハ少クモ法律ノ間フヘキ所ニ非スト雖モ公然之ヲ爲スニ於テハ一般ノ公徳ヲ害スレハナリ

第三ノ要素 公然之ヲ爲スノ意思アルコトヲ要ス

公然之ヲ爲スノ意思即チ公然タル場所又ハ他人ノ面前ナルコトヲ知リテ之ヲ爲スノ意思アルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ十分他人ノ目ヲ遮ルカ爲メニ豫防

シ置キタル戸障子カ偶然倒レタル爲メ公衆ノ目ニ觸ルヘキ状態ニ至リタルヲ知ラサリシ場合ノ如キ公然タルコトヲ知ラサル者ハ本罪ヲ構成セズ然レトモ苟モ抽象的ニ淫事ニ關スル事柄タルコトヲ自覺シタルト同時ニ公然タル場所又ハ他人ノ面前タルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルノ事實アルトキハ直チニ本罪ヲ構成シ其事ノ果シテ猥褻ト形容スヘキモノタルヤ否ヤハ之ヲ知ルコトヲ要セズ蓋シ前述ノ如ク猥褻ナルヤ否ヤハ事實ノ問題ニ非スシテ法律ノ問題ナレハナリ

乙 猥褻ノ物件ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル罪

第二百五十九條ニ曰ク「風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト
本罪ハ前條ノ説明ニ依リテ其大體ヲ了解シ得ヘキカ故ニ予ハ單ニ左ノ説明ニ止ムヘシ

(一) 風俗ヲ害スル冊子圖書トハ猶ホ猥褻ノ冊子圖書ト云フカ如シ即チ猥褻ノ事項ヲ記載セタル文書圖書ニシテ畢竟猥褻ノ物品ノ一種トス

(二) 公然トハ陳列ト販賣トニ關ル文字タリ陳列販賣共ニ公然タルコトヲ要ス故ニ例ハハ懸意上私ニ自己ノ所有品ヲ他人ニ賣渡シタルカ如キハ罪ヲ構成セス然レトモ商人カ自己ノ營業上ニ於テ賣買スルモノハ縱令秘密ニスルモノト雖モ營業其レ自身公然タルヘキモノナルカ故ニ本罪ヲ構成スルモノト信ス

(三) 販賣シタル者ヲ謂シ公然買取リタル者ヲ謂セサルハ淫賣婦ノ相手方ト同シク一ハ罪責輕微ナルト他ハ政策ニ出テタルモノト謂フノ外説明ノ途ナシ

(四) 法律ハ陳列ト販賣トノ二種ニ限ルカ故ニ此他ノ方法ニ出タルモノ例ハハ貸貸贈與ノ如キハ縱令公然ノモノト雖モ本罪ヲ構成セサルモノトス

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

勞ヲ厭ヒ逸ヲ希フハ人生ノ常ナリ是ニ於テカ若シ一朝賭博富籤ノ類ヲ公許セシカ或ハ一部ノ國民ハ之カ爲メニ生業ヲ抛テテ游惰ニ流レ一國竟ニ貧弱ニ陷ルノ恐アリ刑法之ヲ罰スル所以亦此ニ存ス彼ノ賭博富籤ハ合意ニ基キ自己ノ產ヲ以テ自ラ得又ハ失フノミ何人モ之ニ因テ害ヲ受タル者アルコトナシ然ラ

ハ之ヲ許スモ何ノ害スル所ソト云フカ如キハ阿片ノ吸食ヲ許スヘシト云フト同論探ルニ足ラサルナリ

然レトモ法律カ之ヲ風俗ヲ害スル罪ノ中ニ列シタルハ畢竟草案修正ノ際起案者カ之ヲ名ケテ風俗ヲ害スル罪ト曰ヒタル所以ヲ了解セス安ニ其標題ヲ假用シタルヨリ出テタルモノニシテ大ナル誤謬トス蓋シ起案者ノ草案ハ佛國刑法ノ主義ト同シテ賭博ハ其レ自身犯罪ニ非ス唯之カ爲メ公然家屋ヲ設ケ又ハ公衆ノ面前ニ於テ賭博ヲ爲スカ如キハ恰モ猥褻ノ行爲ヲ公ニスルト同シテ一般ノ美風ヲ傷害スルカ故ニ罰セサルヘカラスト云フニ在リテ明文ノ如ク賭博罪其モノヲ犯罪トスル法條ト相容レサレハナリ

第一款 賭博ニ關スル罪

法律ハ第二百六十條及ヒ第二百六十一條ニ於テ賭博ニ關スル犯罪ヲ規定シ凡ソ三種ノ犯罪ヲ豫見セリ曰ク財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル罪賭博ノ情ヲ知リテ房屋ヲ給與シタル罪賭場ヲ開設シ又ハ博徒ヲ招結シタル罪是ナリ

第一項 財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル罪

第二百六十一條ニ曰ク「財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス……但シ飲食物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス」賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス」ト予ハ之ヲ成立要素ト處分トニ分チテ説明スヘシ

甲 成立要素

本罪ヲ構成スルニハ下ノ要素ヲ具備スルコトヲ要ス(一)博奕ヲ爲セタルコト
(二)財物ヲ賭シタルコト(三)現ニ行ヒタルコト是ナリ

第一ノ要素 博奕ヲ爲シタルコトヲ要ス

博奕トハ何ソヤ人或ハ我母法タル佛國刑法ノ註釋書上「ボ氏ノ佛文章案トニ依リ二人以上ノ者カ合意ヲ以テ勝敗ヲ争フヘキ遊戲ヲ爲シ勝者ニ一定ノ金額又ハ有價物ヲ支拂フモノタル博奕ト或事物ノ判斷ニ付キ意見ヲ異ニシタル者カ約シテ勝者ニ一定ノ金額又ハ有價物ヲ支拂フモノタル賭事トヲ分チ「ボ氏佛文

第一第二章案 *Index de l'essai* (偶然ノ博奕トアリテ *P. 15*) (賭事ヲ言ハサルカ故ニ法文所謂博奕ノ中ニハ賭事ヲ包含セサルノミナラス博奕ノ中ニモ民法上訴權アルモノト然ラサルモノトアリテ訴權アルモノハ罰セラルヘキ理由ナキカ故ニ亦之ヲ包含セス而シテ殘餘ノ博奕ニ付テモ專ラ偶然ノ事ニ因リテ勝敗ヲ決スルモノト主トセテ偶然ノ事ニ因リテ勝敗ヲ決スルモノトアリテ法律ノ罰スヘキ博奕ハ勝敗ノ最モ確實ナラサルモノ隨テ最モ危險ノ多キモノタラサルヘカラサルカ故ニ法律所謂博奕トハ前者ニ限ルモノニシテ彼ノ縱令民法上訴權ナキモ其將棋玉奕等ノ如キ多少人ノ技術ニ因リテ勝敗ヲ決セラルヘキモノハ之ヲ包含セスト説明スル者アリ然レトモ我刑法ハ賭博ニ關スル總テノ犯人ヲ嚴罰セントノ主義ヲ以テ規定セラレタルモノニシテ佛國刑法及「ボ氏ノ草案ノ如ク極メテ寛大ナル主義即チ可成の賭博ヲ罰セサルノ主義ヲ以テ規定セラレタルモノト大ニ其趣ヲ異ニセルノミナラス佛國刑法ニ於テハ賭博者其人ヲ罰スルノ規定ナク唯賭博場ヲ開張シタル者ニ付テノミ特ニ賭博ニ供スヘキ家屋ヲ設ケテ賭博者ヲ集メタル場合——即チ賭博屋——ト道路廣小路公園等衆人ノ

群衆スヘキ場所ニ於テ賭場ヲ開張シタル場合——即チ臨時大道ニテ賭博店ヲ開
キタル者——ト別テ前ノ場合ニ於テハ輕罪ヲ以テ之ヲ嚴罰スルモ——二月以上
六月以下ノ重禁錮ニ處シ現場ニ在ル賭物及ヒ賭博ニ備ヘ附ケタル一切ノ器具
ハ之ヲ沒收ス云云——後ノ場合ニ於テハ僅ニ違警罪ヲ以テ論スルノ規定アルヘ
ミ又ボ氏佛文第一第二章案第二百九十三條即チ賭博場開張者ヲ罰スルノ條及
ヒ第二百九十四條即チ賭博者其人ヲ處罰スルノ條ニ於テモ亦 *aux fins des jeux*
de hasard dans sa maison——家屋内即チ賭博開張者カ賭博ノ爲メ特ニ設ケタル
家屋内若クハ公ノ場所即チ道路公園等ニ於テ開張シ又ハ賭博シタル者——トア
ルト同時ニ其註釋第六百十二號ニ「私人ノ住宅又ハ田野山林等ニ於テスル者
ハ罪ヲ構成セズトアリテ其主義佛國ノ規定ト大差ナシ所謂博奕ナルモノハ我
國古ヨリ其規定アルモノニシテ現行刑法ノ明文ハ實ニ新律綱領雜規賭博ノ
條ニ凡ソ財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者ハ皆杖八十賭場ノ財物ハ官ニ入ル其賭房ヲ
開張スル者ハ其列ニ與ラスト雖モ同罪云云」若シ產業ナクシテ常ニ腰刀ヲ挾帶
シ無賴ノ徒ヲ招結シ賭場ヲ開張シ四隣ニ横行スル者ハ皆流一等云云トアルト茫

末ノ異同アルコトナク之カ母法タル清明唐等ノ諸律ヲ案スルニ
唐律 諸博戲財物者各杖一百賭博例賭博者各依已分準盜論輸者亦依已云
之ヲ註スル者曰ク舉博爲例餘戲皆足謂舉博爲名總爲雜戲之例可射既習武藝雖
賭物亦無名云云

明律 凡賭博財物者皆杖八十擺場錢物入官其開張賭房之人同罪止據見發爲
坐職官加一等○若賭飲食者勿論

清律 凡諸賭博財物者皆杖八十所擺在場之財物入官其開張賭坊之人例不與同
罪入官止據見發爲坐職官加一等○若賭飲食者勿論

集解ノ註ニ曰ク博即古六博之博謂以游戲之具角勝負而賭財物今擲骰開牌之類
是也

其條例ニ「凡開鴿鵒圍關雞抗蟋蟀盆並賭圖者照開場賭博枷責例治罪其該管官
亦照開場賭博之該管官員例議處」トアリテ博ハ六博ノ博即チ局戲將棋十六ム
ナシノ類ナリ又孟子ニ奕秋通國之善奕者也トアリテ奕ハ圍碁ナリ
然ラハ唐律ノ古ヨリ所謂博戲ノ中射御六藝等ヲ獎勵スルカ爲メニスルモノ即

ヲ民法上訴權ヲ認ムヘキモノハ之ヲ除外セリト雖モ論者カ所謂多少人ノ技術ニ依リテ勝敗ヲ決セラルルモノナルカ故ニ之ヲ包含セスト稱スル所ノモノ即チ圍碁又ハ將棋ハ法律ノ以テ罪ヲ命スル所ノモノタリ此點ニ關スル論者ノ意見亦辯ヲ要セス

然ラハ賭事ハ如何亦所謂博奕ノ中ニ包含セラルルヤ此點ニ關シ博奕ハ其文字ノミヲ以テハ論者ノ所謂佛語「Cox」ヲ意味スルニ過キサルカ故ニ予ハ必スモ論者ノ說ヲ非難セスト雖モ熟ラ按スルニ博ト曰ヒ奕ト曰ヒ共ニ古者之ヲ創メタルノ當時ニ在リテハ手段ト結果トノ間ニ於テ或簡單ナル快樂ヲ得シカ爲メノ娛樂ニ過キサリシカ同一ノ娛樂ハ漸ク倦怠ヲ來スヨリシテ更ニ一段ノ快樂ヲ添ヘ以テ其倦怠ニ代ヘンカ爲メ多少ノ利益ヲ勝者ニ贈與スルノ法ヲ案出スルニ至リシモノニシテ而モ尙ホ未タ之ニ因リテ弊害ヲ見ルコトナカリシカ安逸ヲ希ヒ僥倖ヲ望ムハ人生ノ常ナルヨリシテ茲ニ主客其位置ヲ異ニシ先ニ目的タリシ者却テ手段ト爲リ手段却テ目的ト爲ルニ至リ人皆其產ヲ抛テ之ニ趣タト同時ニ他ノ一方ニ於テハ骨牌若クハ骨子ノ如キ之ヲ使用スルノ間ニ於テハ

何等ノ快事ナク専ラ輸贏ヲ決シ財ヲ得ルノ目的ニノミ供セラルヘキ物件ヲ案出スルニ至リシヨリ法ハ遂ニ之ヲ制セサルヘカラサルニ至リシナリ然ラハ法ノ依リテ作製セラレタル所以其依リテ罰セントスル所以ノモノハ遊戲ニ非ス勝敗ニ非ス勝敗ニ因リテ生スル所ノ損失又ハ利益ニ在リ是ニ於テカ更ニ眼ヲ轉シテ賭事ノ何モノタルヤヲ見ルニ博戲ハ多少娛樂ト爲ルヘキ遊戲隨テ或有形ノ能力即チ技術ヲ關ハスニ因リテ勝敗ヲ生スルモ賭事ハ自己有形ノ技能ニ依ルニ非ス専ラ自己ニ關セサル偶爾ノ出來事ノ上ニ無形ノ能力即チ意見ヲ關ハスニ因リテ勝敗ヲ決スルモノニシテ其間僅ニ勝敗ヲ決スヘキ手段ヲ異ニスルニ過キス(論者或ハ博戲ノ或モノハ専ラ偶爾ノ事ニ依リテ勝敗ヲ決スルモ賭事ハ然ラスト曰フト雖モ認見タリ兩者ハ専ラ偶爾ノモノト然ラサルモノトアリ之ヲ法ノ博戲ヲ罰セサルヘカラサル所以ノ理由ニ照スニ其間何等軒輊スヘキノ點アルコトナシ論者或ハ賭事ハ遊戲ノ方法ニ依ラサルカ故ニ生業ヲ抛テタ日夜之ニ耽溺スルノ危險ナシト曰フト雖モ是レ佛國等ニ於テ賭事ヲ罰セサルハ其無形ニ行ハルルカ故ニ博戲ノ或モノノ如ク風俗ヲ害スルコトナキニ基

因スルヲ知ラサルヨリ妄ニ附會ノ理由ヲ附シタルニ過キス彼ノ連日角力又ハ競馬會ニ出席シテ賭事ヲ爲ス者ノ如キハ果シテ論者カ言フカ如ク危險ナキカ已ニ之ヲ區別スルノ理由ナシトセハ法ハ何ヲ以テ之ヲ罰セサルカ論シテ茲ニ至ラハ單ニ文字ノ止ニ於テ博奕ハ賭事ヲ含マスト云フノ外他ニ理由ノ據ルヘキモノアルコトナシ果シテ博奕ハ賭事ヲ含マサルカ骰子ヲ以テ輸贏ヲ爭フハ博奕ノ最モ顯著ナルモノトシテ世人ノ異シマサル所ナリ然レトモ此事果シテ博奕ニ屬スルカ予ハ其賭事タルコトヲ信シテ疑ハス蓋シ博奕ハ遊戲ナリ已ニ之ヲ遊戲トスレハ其事自身カ多少ノ技能ヲ用フルモノ換言スレハ勝敗ノ數カ多少自己ノ手腕ニモ存スルモノ隨テ其結局ニ至ルマテモ多少ノ能力ヲ費スル故ニ其手段ト結果トノ間ニ於テ或快樂ヲ覺ユルモノタラサルヘカラサルヤ論ヲ埃タス骰子ヲ投スルノ行爲果シテ勝敗ノ數カ多少自己ノ手腕ニ存スルモノ隨テ其手段ト結果トノ間ニ於テ或快樂ヲ覺ユルモノアリヤ骰子ヲ投スルニ因リテ得ル所ノ快樂單ニ其結果ニノミ存セリ骰子ハ通常犯人自ラ投スルモ亦第三者ニ依リテ投セラルルコトヲ得ルニ依リテ之ヲ知ルヘシ已ニ其快樂結果ノ

上ニノミ存スルモノトスレハ是レ其現出スヘキ數ノ上ニ於ケル意見ノ爭ノミ競馬角力ノ優劣ヲ判定シ又ハ後日ノ晴雨ヲトスルト何ノ異ナル所アラシヤ人或ハ曰ハシ競馬角力ノ優劣又ハ後日ノ晴雨ハ犯人ノ行爲ニ關係ヲ有セス之ニ反シテ縱令骰子ハ第三者ニ依リテ投セラルルモ是レ犯人ヲ代表シテ投スルナリ然ラハ彼ト此トハ犯人ノ行爲ニ出ワルト否トノ點ニ於テ差異アリト夫レ然リ豈夫レ然ランヤ論者若シ他人ノ賭場ニ望ミ他人ノ骰子ヲ投スルヲ利用シ傍ニ於テ更ニ一圍ノ賭博組合ヲ作リテ輸贏ヲ爭ヒタル者ハ全ク關係ナキ他人ノ行爲ヨリ現出セラルル骰子ノ點數ニ付テ意見ヲ爭フモノナルカ故ニ無罪ナリト論決スルノ勇アラハ已ム苟モ之ヲ以テ有罪ナリト論決センカ賭事ノ博奕ト區別セラルル所以茲ニ在リト云フヲ得ザラン否子ヲ以テ之ヲ觀レハ骰子ナルモノハ競馬角力ノ賭事ヨリモ一步ヲ進メタルモノ詳言スレハ競馬角力ニ依リテ生スヘキ勝敗ノ結果ヲ見シカ爲メニハ多少ノ時間ヲ要シ其目的ヲ達スルノ材料トシテハ甚タ迂遠ナルカ爲メ時間ヲ省略スルト同時ニ競馬等ニ依リテ生スルハキ場合(ends)ヲ頻繁ナラシメテ以テ十分ニ其目的ヲ達センカ爲メ一六ノ數

ヲ四方ニ配置シテ案出セラレタルモノニシテ前者ヨリ數段ノ進歩ヲ爲シタルモノタリ而シテ其犯人自ラ之ヲ投スルカ如キハ畢竟意見ヲ爭フヘキ場合ヲ發生セシムルカ爲メ已ムヲ得サルニ出ヅルノミ博戯ノ如ク目的自體ノ性質上必要ノモノニ非ス論シテ茲ニ到ラハ骰子ヲ投シテ勝敗ヲ爭フハ純然タル賭事ト謂ハサルヘカラス之ヲ以テ賭事ナリトセハ我所謂博奕ナルモノハ唐律所謂博ヲ以テ例ト爲ストアルト同時ニ骰子ニ依ラサル自餘ノ賭事モ亦之ヲ包含スト謂ハサルヘカラサルナリ

(附言)人或ハ勝敗ニ偶然ノモノト然ラサルモノアルカ如ク思惟スルモノアリト雖モ勝敗ハ常ニ偶然ノモノタリ唯其間純然タル幸運ノモノト多少結果ヲ推測スルコトヲ得ルモノトノ差アルノミ蓋シ初ヨリ勝敗ノ數ヲ確知シ得ルモノノ間ニ於テハ爭ノ生スヘキ理ナケレハナリ

以上之ヲ要スルニ我所謂博奕ナルモノハ彼ノ毆打創傷若クハ闘毆ナル文字ト同シタ昔時ニ在リテハ其文字ノ示スカ如ク碁將棋等總テ勝敗ヲ爭フヘキ博戯ハ中學術技藝其他農工商業ノ發達進歩ヲ圖ルカ爲メニセラルルモノヲ除外レ

タル總テノモノヲ意味セシモノニシテ賭事ヲ含マナリシモノナルモ法律制定ノ趣旨ハ專ラ僥倖ヲ希フニ因リテ生スヘキ弊害ヲ杜遏セントニ在リシカ故ニ世ノ進歩ト共ニ賭事ニモ適用セラルヘキ一種ノ法語ト爲リシモノニシテ現今ニ在リテハ右ニ所謂除外セラルルモノヲ除クノ外總テ財物ヲ賭シテ爭フコトヲ意味スルモノトス

第二ノ要素 財物ヲ賭シタルコトヲ要ス

(一)財物トハ吾人カ其物ノ上ニ法律上ノ利益ヲ有スル總テノ有體物ヲ謂フ債權使用權質權等ノ無體物ヲ含マス然レトモ法律ハ單ニ財物タルコトヲ要シ必スシモ動産タルコトヲ要セサルカ故ニ不動産ト雖モ賭博ノ目的物タルコトヲ得ルモノトス(二)賭シタルコト賭スルトハ委運契約ノ目的物トスルノ義即チ勝タハ得敗ルレハ失フヘキモノトスルノ義ナリ故ニ例ヘハ我ニ勝タハ金若干ヲ與ヘント云フカ如キ無償契約ノ目的物トシタル事實ハ之ヲ以テ賭シタリト謂フヲ得然レトモ單ニ契約ノ目的物トシタルノ事實アルノミヲ以テ十分ナリトスルカ故ニ後日勝者ニ金若干ヲ支拂フヘシト云フカ如キ現實ニ物ノ取引ヲ爲

チナル場合ニ於テモ仍ホ罪ノ構成ヲ妨ケス此點ニ付キ彼ノ賣買ハ物ノ所有權ヲ移サントノ契約ニ非スシテ物ノ所有權ヲ移轉セシムル取引行為ナリトスルノ觀念ト同シク若シ賭博ハ勝タレハ得敗ルレハ與ヘント云フ契約ニ非スシテ勝敗ト云フ事實ニ由リテ物ノ所有權ヲ移轉セシムル取引行為ナリト立論セハ賭博ハ勝敗ニ依リテ直チニ敗者ノ物特定物ト不特定物トヲ問ハスノ所有權カ勝者ニ移ルヘキ場合タルコトヲ要スルカ故ニ後日金若干ヲ支拂ハント云フカ如キ債權即チ人ノ行為ヲ目的トシタルモノハ賭博ニ非スト謂フコトヲ得ヘシ此決定如何ハ民法上訴權アルヘキ博戲又ハ賭事ニ於テ若シ敗者カ勝敗ノ確定シタルトキ直チニ賭場ニ算出シ置キタル賭金ヲ自己ノ懷中ニ回收シタル場合ニ於テハ竊盜罪ヲ構成スヘキヤ否ヤ等ノ問題ニ影響ヲ有ス面白キ問題ナリ研究ヲ要ス

第三ノ要素 現ニ行ヒタルコトヲ要ス

法文「現ニ博奕ヲ爲シタル者」トハ如何ナル意味ヲ有スルヤニ付キ從來種種ノ解說ヲ試ミタル者アリ即チ或ハ風俗ヲ害スル罪タリトノ點ヨリ觀察シ「現ニ」トハ

公然ノ義ナリト解シ或ハ「現ニ」ナル文字ハ共犯ノ場合ニ於テ多ク用ヒラルル文字タルト同時ニ第二百六十一條前段ハ後段ニ對シテ正犯ノ地位ニ在ルヨリ現實賭博ニ從事シタルノ義ナリト解シタル者アリ然レトモ何レモ草案ノ説明盡ナナルヨリ附會シテ試ミラレタルモノニシテ正當ノ解釋ト認ムルヲ得ス蓋シ佛國刑法ト共ニ本罪ヲ以テ風俗ヲ害スル罪ナリト觀察シタル草案ノ條文ニハ先ニモ示シタル如ク別ニ賭博開帳者ノ家屋又ハ公ノ場所ニ於テ等ノ文字ヲ以テ其意ヲ示シタルト同時ニ刑法明文何レノ處ニ於テモ「現ニ」ナル文字ヲ公然ノ義ニ使用シタル例ナキノミナラス本條ノ場合ニ限リ特ニ正犯ト從犯トヲ明カニセサルヘカラサルノ理ナク然ラハ如何ニ解釋スヘキヤ曰ク本條ニ相當スル佛文第一草案第二百九十四條ヲ按スル *crayonné en flagrant délit de jeu de hasard, dans les condition de l'article précèdent* (前條ニ掲ケタル條件即チ賭博開帳者ノ家屋又ハ公然ノ場所ニ於テ現行犯トシテ發覺セラレタル者云云)アリ又其第二草案註釋第六百十二號ニ本罪ハ行為ノ終了ト共ニ罪證直チニ消滅ス云云トアリ「*現*」氏カ佛國刑法ニ倣ヒテ起案シタル部分即チ賭博開帳者ノ家屋又

ハ公然ノ場所ナル文字ハ確定法文ニ於テ全ク排除セラレテ痕跡ヲ留メサルニモ拘ラス唯リ其 Infrant delit (現行犯)ニ相當スルカ如ク思惟セラルヘキ「現ニテ」ル文字ノ記載セラレタルト同時ニ其註解ノ說明我新律綱領ノ母法タル清律ノ釋ト暗タ相類スルトニ依リテ之ヲ觀レハ草案文中 Enfant de la 民ノ創意ニ非ス一ラ我編纂委員ノ說ニ基キテ記入セラレタルモノニシテ我編纂委員ノ之ヲ主張シタルハ彼等ノ刑法ニ於ケル智識上清律ニ依リタルモノト推測スルコトヲ得ヘキカ故ニ茲ニ「現ニ」トハ其淵源ヲ清律止據見發爲坐ニ發セラ草案ニ移リ留リテ明文ノ一部ト爲リモノニシテ草案所謂現行犯ヲ意味スト解釋セサルヘカラスト信ス然リ而シテ其之ヲ要シタル理由ニ付テハ清律ノ註釋ニ「蓋非見發即無憑據恐有指攀誣陷之弊也」トアリテ誣陷ノ最モ盛ナル彼國ニ於テハ必要ナル明文タルヘシト雖モ我國ニ於テハ單ニ罪證消滅シ易シト云フノミニシテ罪證ノ消滅シ易キハ唯リ賭博ニ限ラサルカ故ニ殆ト之ヲ置クノ必要ナシ畢竟其國情ヲ詳ニセズ妄ニ他國ノ法制ヲ模倣シタルノ缺點ニシテ學者ノ疑問ヲ煩ハヤタル所以亦此ニ職由ス立法ノ任ニ在ル者慎マサルヘケンヤ

乙 處分

處分ニ付テハ法律ハ二月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收スト云ヘリ前段ハ格別說明スヘキモノナシ後段ハ清律所謂「攤在場之財物入官ニ相當ス」(賭博ノ器具トハ骰子骰牌數取ノ爲メニ用フル砵石木札等勝敗ヲ爭フ爲メニ必要ナル器具ノ義ニシテ臨時賭場ニ敷カレタル風呂敷又ハ胡蘆等ノ類ハ包含セス)賭博ノ財物トハ賭シツアル財物及ヒ賭スルカ爲メノ財物賭博ニ因リテ得タル財物賭博ヨリ生シタル寺錢等總テ賭博ニ關係アル財物ノ義ナリ(三)現物ニ在ルモノハ之ヲ沒收ス何レモ賭場ニ現在スルモノ即チ表現シテ賭場ニ存在スルモノタルコトヲ要スルカ故ニ他所ニ存在スルモノ又ハ犯人ノ懷中ニ存在スルモノハ沒收スルコトヲ得ス然ラハ土地家屋等不動産ヲ賭スルカ爲メ其内又ハ其現在スル場所ニ於テ賭博シタル場合ニ於テハ其不動産モ亦之ヲ賭場現在ノモノトシテ之ヲ沒收スルコトヲ得ルヤ改定律例第二百七十條ニハ「原主ニ還付シ官ニ入ルノ限ニ在ラス」トアリシモ現行法ニ此制限ナキカ故ニ聊カ奇異ノ感アル

モ猶ホ沒收セラルヲ得テラジ(四)此等沒收ノ規定ハ賭博ニ特殊ナル規定ナルカ故ニ總則ノ規定ト重複スルモノニ付テモ決シテ總則ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス

第二項 賭博ノ情ヲ知リテ房屋ヲ給與シタル罪

第二百六十一條後段ニ曰ク「一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ」と

一 亦同シトハ刑罰相同シノ義

二 賭博ノ情ヲ知リ待ニ之カ爲メニ房屋ヲ給與シタルノ事實アルコトヲ要スルカ故ニ初メ知ラスシテ貸與シタルトキハ縱令後ニ至リ其情ヲ知リテ制セタルモ罪ヲ構成セス下宿待合等ニ屢現出スル事實ナリ

三 然レトモ已ニ情ヲ知リテ給與シタルノ事實アルトキハ其因リテ報酬ヲ得タルト否トハ犯罪ノ構成ニ影響ヲ有セス

四 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖ル者トノ區別如何曰ク賭場ヲ開張セテ利ヲ圖ル者

ハ賭博ノ興行者ニシテ恰モ青樓ノ遊治郎ヲ待ツカ如ク豫メ之ニ備ヘテ賭博者ヲ誘引スル者一種ノ教唆ニ類ス房屋ヲ給與スル者ハ賭博者ノ求ニ應シテ臨時之ヲ幫助スル爲メ一種ノ從犯タリ換言スレハ前者ノ行爲ハ賭博者ヲ招集スルモノニシテ賭博者ヲ客トシ後者ハ賭博者ニ從ヒテ利便ヲ與フル者ニシテ賭博者ヲ主トスルノ差アリ

五 本罪ハ其性質賭博ノ從タル行爲ナルカ故ニ賭博者罪ヲ構成スヘキ場合ニ非スシハ罪ヲ構成セス

六 其刑主犯ト同一ナルハ單ニ嚴罰センカ爲メノミ

第三項 賭場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ招結シタル罪

第二百六十條ニ曰ク「賭場ヲ開張セテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」と是レ先ニ引用シタル新律綱領賭博ノ條若シ產業ナクシテ常ニ腰刀ヲ挾帶シ無賴ノ徒ヲ招結シ賭場ヲ開張シ四隣ニ横行スル者ハ皆流一等ノ罪トシテ來レル條文ナ

ヲ賭場開張ニ付テハ佛國ニ於テモ其刑法第四百十條ニ其規定アリト雖モ法條ノ性質全ク相異ナレリ

一 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル者 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖ル者トハ之ニ依テ收入ヲ得ルカ爲メ賭場ヲ開張シテ賭博ヲ爲サシムル者ト云フヲ義ニシテ法文ノ主トシテ言ハント欲スル所ノモノハ技術練習ノ爲メトシテ公認セラレ玉突場又ハ大弓場ノ如ク公衆ヲシテ博戯ヲ爲サシメンカ爲メ玉轉ハシ場等ヲ設ケテ一定ノ入場料又ハ器具ノ使用料等ヲ徴收スル者ニ在リト雖モ彼ノ親分ト稱スル者カ賭場ヲ設ケ賭博者ヨリ寺錢ヲ徴收スルノ行爲モ亦本罪ノ中ニ入ルヘキモノトス

二 博徒ヲ招結シタル者 (一)博徒トハ賭博ヲ常業トスル無賴ノ賭博者ヲ云ヒ(二)招結トハ囑聚シテ團結(彼ノ俗ニ所謂縁組品兵衛ノ身内又ハ國定忠治ノ語ト作リ己レ自ラ其首長ト爲ルコトヲ云フモノニシテ即チ博徒ヲ招結シタル者トハ俗ニ所謂博徒ノ親分ヲ云フモノトス)者トハ俗ニ所謂博徒ノ親分ヲ云フモノトス 二者ノ刑賭博者其者ノ刑ヨリ重キ所以ハ二者共ニ賭博ヲ誘引獎勵スル者ニシ

テ其害彼ニ比シテ遙ニ大ナルモノアレハナリ又法律ハ第二百六十一條ニ於ケルカ如ク現行犯ナルコトヲ要セタルト同時ニ其犯人自ラ賭博ニ關與シタルコトヲ要セサルカ故ニ本條規定ノ行爲アルトキハ直チニ罪ヲ構成シ犯人更ニ自ラ賭博ニ關與シタルトキハ第二百六十一條ノ條件ヲ充タシタル場合ニ於テ本罪トノ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノトス

第二款 富籤ニ關スル罪

富籤ニ關スル犯罪ハ刑法ト明治十五年第二十五號布告トニ跨リテ規定セラル甲 刑法 第二百六十二條ニ曰ク財物ヲ贖集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

乙 明治十五年第二十五號布告 明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原キ富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及富籤ヲ購賣シタル者處分方左ノ通決定ス 富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及富籤ヲ購賣シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタル未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ譲リ受ケタル者亦曰シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徴スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セタル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ許ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス
自首ニ因テ罪ヲ免シタル罪ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル
ト即チ予贖ハ先ツ富籤ノ何モノタルコトヲ説明シ次ニ之ニ關スル處分ヲ説明

甲 富籤ノ定義 法律ハ第二百六十二條ニ於テ富籤興行者ノ定義ヲ示セリ曰ク「財物ヲ隱集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者云云」之ニ依リテ觀レハ富籤トハ二人以上ハ者ハ財物ヲ隱集シテ財團ヲ作り更ニ抽籤ノ方法ニ依リ其財團又ハ其代物ノ全部又ハ一部ヲ平等ニ出資者ニ分配シ依リテ出資者ノ或者カ利益ヲ僥倖シ他ハ者カ損害ヲ受ケルコトヲ謂フモノニシテ賭博トノ間其之ニ依リテ利益ヲ僥倖シ又ハ損害ヲ受ケル者ヲ害スト云フノ結果ニ於テハ毫末ノ差異ナシト雖モ彼ハ勝敗ト云フ出來事ニ因リテ始メテ勝者カ敗者ノ手中ヨリ財物ヲ獲得スルコト云フノ手段即チ勝敗關係ニ依ルモ此ハ抽籤ト云フ偶然ノ事ニ因リ先ニ出資シタル物ヨリモ多ク物又ハ少キ物ヲ得若クハ全ク何物ヲモ得サルコトト爲ルト云フノ手段即チ損益關係ニ因ルノ點ニ於テ大ナル性質上ノ差異アリ更ニ此關係ヲ明カニセンカ爲メ損失ヲ被リタル者ノ方面ヨリ説明セシ賭博ニ在リテハ勝敗ノ定リタルトキ始メテ自己ノ財産ヲ奪取セラルルモ富籤ニ在リテハ先ニ失ヒタル財物ヲ回復スルコトヲ得サル

ニ過キサルノ差アリ) 右ニ説明スルカ如ク富籤ハ其手段ノ性質上ニ於テ賭博ト大ナル相違アリト雖モ人ノ僥倖心ヲ養成シ社會ヲ害スルノ點ニ至リテハ全ク同一否彼ノ散子ヲ投シテ輸贏ヲ爭フモノト同シテ毫モ人ノ技藝又ハ能力ヲ要スルモノニ非タルノ結果其レ自身直チニ學術技藝又ハ農工商業ヲ獎勵裨益シ得ヘキモノタル性質ヲ有セス隨テ富籤ハ賭博廣キ意義ニ於テ云フト異ナリ如何ナルモノト雖モ其レ自身不法有害モノタルノ性質ヲ有セリト雖モ一時ニ多額ノ財産ヲ賺集スルノ方法トシテハ最モ便宜且ツ有效ノモノナルカ故ニ若シ其目的國家ヲ裨益スヘキ必要アル事業換言スレハ非常手段ヲ執ルモ猶ホ且ツ之ヲ與ササルヘカラサル程ニ必要ナル事業ヲ與サンカ爲メ等ニ在ルトキハ國家ハ所謂小虫ヲ殺シテ大虫ヲ助クルノ非常政策ヲ執リ之ヲ許スヲ有益ナリトスルコトアリ是レ我法律ノ曾テ認メタル所ナルモ歐米諸國ノ法典ニ於テ之ヲ官許スルコトアルノ規定ヲ設ケタルト同時ニ官許ニ依ラサルモノハ賭博ト異ナリ如何ナルモノト雖モ不法有害ノモノトシテ處罰スルノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

乙 富籤ニ關スル處分 刑法第二百六十一條ハ富籤興行者ノ處分ニ關シ明治十五年第二十五號布告ハ富籤賣買ノ牙保又ハ幫助ヲ爲シ及ヒ其購買ヲ爲シタル者ノ處分ニ關ス

第一 富籤興行者ノ處分 (一) 富籤興行者トハ前ニ所謂富籤ヲ創始シ以テ利益ヲ僥得セントスル出資者ヲ募集スル者ヲ謂フ(二) 其行爲賭博ヲ開設スル者ト大差ナシ法ノ之ヲ待ツニ一月以上六月以下ノ重禁錮ト五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ以テスルハ些カ權衡ヲ失スルノ嫌アリ

第二 富籤賣買ノ牙保又ハ幫助ヲ爲シタル者及ヒ其購買ヲ爲シタル者ノ處分 (一) 牙保トハ刑法第三百九十九條ニ所謂牙保ト同シク媒介ヲ爲スノ義ニシテ賣主ト買主トノ間ニ周旋シ賣買行爲ヲ容易ナラシムルモノヲ謂ヒ一種ノ幫助タリ(二) 牙保及ヒ幫助ノ刑興行者ト同一ナルハ知情給與房屋者ノ刑賭博者ト同一ナルカ如シ深キ理由アルニ非ス(三) 購買者ノ刑稍ヤ輕ク二十日以上四月以下ノ重禁錮ト四圓以上四十圓以下ノ罰金タルハ賭博者ノ刑賭場開張者ヨリモ輕キカ如シ(四) 布告第三條再犯ノ場合ニ於テ刑期金額ノ二倍云云ハ例ヘハ牙保ナレ

ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ノ範圍内ニ於テ先ニ科シタル刑罰ヨリ重キ刑罰ヲ科スヘシトノ義ニシテ再犯加重ノ變例タリ習慣犯ニ對スル處分トシテハ適當ノモノナレトモ與行者ニ及ハサレハ第四條以下ノ規定ト共ニ立法ノ缺典ナリ(五)布告第四條以下皆「富籤ニ關スル」テ「廣キ文字アリテ刑法規定スル所ノ與行者ニモ及フヘキカ如キモ布告ノ標題富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方」アルカ故ニ此等ノ者ノ犯罪行為ニノミ關スル規定ト謂ハサルヲ得ス亦立法ノ缺典ナリ

第三節 信教ニ對スル罪

予カ茲ニ信教ニ對スル罪ト題スルハ刑法第二百六十三條ノ犯罪ヲ總稱シタルモノナリ

第二百六十三條ニ曰ク「神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス」ト二百六十一條ノ規定ニ關シテ

第一項ハ神佛其他人ノ尊敬又ハ歸依スル所ノモノニ對スル不敬罪ヲ第二項ハ所謂狹義ニ於ケル信教ノ自由ヲ妨害スル罪ヲ規定シタルモノトス

第一 不敬罪ニ付テ

一 神祠佛堂墓所其他人ノ禮拜所 (一) 神祠佛堂其他ノ禮拜所トアリテ恰モ殿堂等建造物ニ對スルコトヲ要スルカ如キモ(イ)建造物ハ人ノ尊敬又ハ歸依スヘキ神體又ハ佛體ヲ安置スル場所ニ過キサルモノニシテ所謂不敬罪ハ神又ハ佛ノ尊嚴又ハ功德ト云フ無形ノモノニ對シテ行ハルモノナルト(ロ)本罪ニ相當スル佛文第一草案第二百九十六條ニモ *contre personne qui aura osé s'offrir volontairement, dans un temple, dans un cimetière ou dans un autre lieu religieux une offense publique à un culte reconnu ou autorisé au japon* (神祠佛堂墓地其他ノ信教ニ關スル場所ニ於テ公然セラルタル宗教ニ對シトアリテ神祠佛堂……ハ尊嚴又ハ功德ヲ汚漬セラルヘキ目的物ノ所在ヲ示スト同時ニ犯罪行為ノ行ハルヘキ場所ヲ示スノ語タルニ過キサルトニ依リテ之ヲ觀レハ必シモ殿堂其他ノ建造物内ニ於テスルコトヲ要セス苟モ人ノ禮拜スヘキ場所ニ於テシタル者ハ路傍ノ淫佛ニ對スルモ

仍本罪ヲ構成スヘキモノト信ス此點ニ關シ人或ハ神祠佛堂トシモアルカ故ニ墓碑又ハ路傍ノ神佛ニ對スル不敬ノ行爲ハ第四百二十六條第十號ニ該當スルカ如ク信スル者アルモ認ナリ彼ハ主トシテ博徒カ墓碑ヲ缺キ取リ旅人カ落書ヲ爲スカ如キ行爲等ヲ豫見シタルモノニシテ若シ公然タル不敬ノ行爲ニ涉ルトキハ皆本條ニ入ルヘキモノトス(1)然レトモ神祠佛堂……其他ノ禮拜所トアルカ故ニ公然認メラレタル禮拜所タルコトヲ要ス彼ノ一人力自己ノ迷信ヨリ私ニ注連繩ヲ施セタル樹木等ニ對スル者ハ或ハ第四百十九條ノ犯罪ト爲ルヘキモ本罪ヲ構成セス

二 公然不敬ノ所爲ヲ爲シタル者 (一)公然タルコトヲ要スルカ故ニ隱密ニ行ハレタルモノハ有形ノ行爲ニ依リテ行ハレタル場合ニ限リ第四百二十六條第十一號ノ犯罪タルヘキモ本罪ヲ構成セス(2)不敬ノ所爲トアリテ第四百十七條、第四百十九條等ニ使用セラレタル「不敬」同一ナルカ故ニ苟モ人ノ尊敬又ハ歸依スヘキ神佛等ニ對シ其尊嚴又ハ功德ヲ汚瀆スルノ意思ヲ以テ公然不敬ト判定スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ場所ノ如何行爲ノ如何ヲ問ハス罪ヲ構成スヘキカ

如キモ前掲ノ如ク草案ニ「dans un temple dans un cimetière ou dans un autre lieu religieux(神祠佛堂其他ノ信教ニ關スル場所ニ於テ)アリテ其現場ニ於テ神佛ニ向テ行ハルヘキ行爲タルコトヲ要スルカ故ニ言語動作等現場ニ於テ行ハルヘキモノタルコトヲ要スルモノニシテ彼ノ刷行ノ文書圖畫等ニ依リ他所ニ於テ行ハルモノハ本罪ヲ構成セザルモノトス」(3)一讀ニテ其旨ハ明白ナリ

第二 信教ノ自由ヲ害スル罪ニ付テ
單ニ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者トアリテ其手段ヲ限定セスト雖モ前項ト同シク草案ニ「dans les mêmes lieux(前同一ノ場所ニ於テ)トアルニ依リテ之ヲ觀レハ言語又ハ動作等ニ依リ現在其場所ニ於テ行ハルコト例ヘハ喧囂騷擾シテ遑間ヲ妨ケ又ハ禮拜者ヲ抑留シテ之ヲ妨クルカ如キコトヲ要スルモノニシテ彼ノ文書ヲ刊行シテ廣ク之ヲ攻撃スルカ如キ所爲ヲ含マサルモノトス」(4)

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

本章規定スル所ノ犯罪ハ人ノ遺骸ニ對スル遺棄及ヒ宗教上ノ感情ヲ傷害スル

ニシテ宗教感情ノ盛ナリシ羅馬及ヒ歐洲ノ古法ニ於テハ最も嚴重ニ處斷
セシムル死刑ヲ以テ之ヲ罰セシコトアリ
本章ノ規定ハ第二百六十四條乃至第二百六十六條ノ三箇條ニシテ第二百六十
四條ハ死屍ヲ毀棄スル罪ヲ第二百六十五條ハ墳墓ヲ發掘スル罪ヲ第二百六十
六條ハ二罪ノ未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定ス而シテ第二百六十六條ノ規定ハ說
明ヲ要セサルカ故ニ之ヲ省キ單ニ第二百六十四條及ヒ第四百六十五條ノ規定
ヲ説明スヘシ

第一節 死屍ヲ毀棄スル罪

第二百六十四條ニ曰ク埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一年以上一年以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加スト
本罪成立ノ要素ハ下ノ四トス(一)死屍タルコト(二)埋葬スヘキモノタルコト(三)毀
棄シタルコト(四)埋葬スヘキ死屍タルコトヲ知り之ヲ毀棄スルノ意思アルコト
是ナリ

第一ノ要素 死屍タルコトヲ要ス
(一)單ニ死屍トアルカ故ニ人類ノ遺骸ヲ指スモノトス蓋シ單ニ醫師ト云フトキハ
人醫ヲ指シ禽獸ノ醫師タルトキハ特ニ獸醫ト稱スルカ如ク禽獸ノ死屍タルト
キハ特ニ禽獸ノ二字ヲ冠スルヲ例トスレハナリ第四二七條第六號(二)人類ノ遺
骸タルコトヲ要スルカ故ニ縱令人類ニ關スルモ姪姪後僅ニ一二箇月ニシテ未タ
人類ト認ムル次ノ體軀ヲ具フルニ至ラサル者ハ之ヲ包含セス然レトモ姪姪四
箇月以上ニシテ已ニ人類ノ形體ヲ具ヘタル者ノ死屍ハ皆茲ニ所謂死屍トス(明
治十七年十一月十一日內務省達乙第四十八號第十一條第三項參看)(三)死屍トア
ラタ生命ヲ亡失シタル者ニ係ルコトヲ意味スルカ故ニ生存者ノ手足ノ斷片等
生命ノ亡失ニ因リテ活動力ヲ失ヒタル者ニ非サルモノハ茲ニ所謂死屍ニ非ス
第二ノ要素 埋葬スヘキモノタルコトヲ要ス
人ノ死屍ハ皆埋葬ヲ要スヘキモノタリ而シテ法律之ヲ言フ所以畢竟埋葬シタ
ル死屍ニ對シテハ次條別ニ制裁アルカ故ニ之ト區別セシカ爲メニ外ナラザラ

第三ノ要素 毀棄シタルコトヲ要ス

毀棄トハ毀棄即チ毀損シ又ハ遺棄スルコトヲ意味スルモノニシテ死體ヲ物質的ニ損傷シ又ハ道路或ハ原野等ニ暴露シ若クハ河海ニ投棄スルノ類ヲ謂フ埋葬スヘキ場所以外ニ埋葬スルハ遺棄ニ非ス單ニ第四百二十五條第十三號ノ違背タルノミ

第四ノ要素 死屍タルヲ知リテ之ヲ毀棄スルノ意思アルコトヲ要ス故ニ生者ナリト信シテ死體ヲ毀傷又ハ遺棄シタルトキハ本罪ヲ構成セス已ニ死體タルコトヲ知リナカラ之ヲ毀棄スルノ意思アリタルトキ直チニ罪ヲ構成ス違因ノ如何ハ犯罪ノ構成ニ影響ヲ有セス 蓋シテ遺棄ト遺棄共ニ之ヲ罰スルハ死體ニ對スル道義又ハ宗教感情ヲ害スルカ故ニ在ルヲ以テ綜合表而上本條規定スル所ノ各要素ヲ具備スルモ埋葬ノ方法トシテ之ヲ火葬シ又ハ學術研究ノ爲メ之ヲ解剖スルカ如キ毫モ道義又ハ宗教感情ヲ害セザルモノハ本罪ヲ構成スルコトナシ唯其官許ヲ得シテ私ニ火葬又ハ解剖シタル場合ニ於テ一ハ明治十七年十月四日太政官布達第二十五號墓地及

ヒ埋葬取締規則第四條及ヒ同日太政官通第八十二號ニ違背シ他ハ刑法第四百二十五條第七號ニ該當スルノミ

終ニ臨ミ若シ謀故殺人又ハ毆打致死者カ其罪跡ヲ蔽ハシカ爲メ被害者ノ死體ヲ毀損シ若クハ遺棄シタル場合ニ於テハ別ニ本罪ヲ構成スヘキヤ否ヤノ問題アリ予ハ本罪死屍ニ對スル行為ヲ罰スルノ規定ハ生者ニ對スル行為ヲ罰スルハ規定ヲ延長シタルニ過キサルモノニシテ千八百十年佛國刑法理由書參看本問ハ恰モ竊盜犯者カ其竊取シタル物件ヲ毀損スルト一般死體毀棄ト云フ死屍ニ對スル不敬ノ所爲ハ被害ト云フ生者ニ對スル大不敬罪中ニ包含セラレルモノナルカ故ニ別ニ一罪ヲ構成スルコトナキモノト信ス

處分ニ付テハ一年以上一年以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス未遂犯ノ場合ニ於テハ第二百六十六條ニ依リ處斷ス別ニ説明スヘキコトナシ

第二節 墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十五條ニ曰ク墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スト

本罪成立ノ要素ハ下ノ三トス(一)墳墓ヲ發掘シタルコト(二)棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタルコト(三)情ヲ知リ意ヲ以テシタルコト是ナリ

第一ノ要素 墳墓ヲ發掘シタルコトヲ要ス

(一)死屍ニ關スルカ故ニ人ノ墳墓タルコト論ヲ缺タス(二)發掘スルコトヲ要スルカ故ニ單ニ之ヲ毀損シ又ハ汚漬スルニ過キタルモノハ本罪ヲ構成セス第四百二十六條第十號ニ該當スル違警罪タルノミ但シ發掘セントシテ未遂犯ヲ構成スル場合ト混同スヘカラス

第二ノ要素 棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタルコトヲ要ス

(一)棺槨又ハ死屍トアリテ何レヲ見ハスモ罪ヲ構成スルカ故ニ彼ノ火葬シタル灰ヲ藏シタル瓶ノ如キ死體ナキモノト雖モ之ヲ見ハスニ於テハ罪ヲ構成ス

(二)見ハスヲ以テ罪ヲ完成ストスルカ故ニ發掘セントシタル者ハ勿論發掘シタルモ未タ棺槨又ハ死屍ヲ見ハスニ至ラサル者ハ未遂犯タルノミ

第三ノ要素 情ヲ知リ意ヲ以テスルコトヲ要ス
情ヲ知リ意ヲ以テシタルコトヲ要スルカ故ニ發掘スルモ墳墓タルコトヲ知ラサルカ墳墓タルヲ知ルモ偶々耕作中過テテ墳墓ヲ侵シ其棺槨ヲ見ハシタルカ如キハ罪ヲ構成セス然レトモ其違因ハ犯罪ノ成立ニ關係ヲ有セサルカ故ニ單純ナル好奇心ニ出ワルト將テ竊盜等他罪ヲ犯スノ意思ニ出ツルトヲ問ハス罪ヲ構成ス

又前條ニ於ケルカ如ク縱令表面上本條規定スル所ノ各要素ヲ具備スルモ改葬ノ爲メニ棺槨ヲ見ハスカ如キ道義又ハ宗教感情ヲ害セサルモノハ本罪ヲ構成セス唯其官許ヲ受ケサル場合ニ於テ明治十七年十月四日太政官布達第二十五號墓地及ヒ埋葬取締規則第四條及ヒ同日太政官達第八十二號ニ違背スル違警罪ヲ構成スルノミ
處分ニ付テハ二月以上二年以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處

シ未遂犯ノ場合ニ於テハ第二百六十六條ニ依リテ處斷シ有意ト無意トヲ問ハス其因テ死屍ヲ毀棄シタル場合ニハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

本章ノ罪ハ第二百六十七條乃至第二百七十二條ヲ以テ規定セラルル所ノモノニシテ之ヲ大別スレハ(一)商業ニ關スル妨害ノ罪(二)農工業ニ關スル妨害ノ罪(三)物品ノ價值ノ昂低ニ關スル罪ノ三種ト爲ヌヲ得ヘシ

本章ハ「商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪」トアリテ例ヘハ甲商人カ乙商人ノ營業ヲ妨害センカ爲メ行ヒタル行爲ノ如キ一箇人ニ對スルモノモ亦本章ノ犯罪タルカ如キ觀アリト雖モ本章ハ公益ヲ害スル罪ノ一ニ列セラレ性質上一般公眾ノ利益ヲ害スルモノニ非スハ罪ヲ構成セタルモノナルカ故ニ右設例ノ如キ場合ハ特別法ノ犯罪ト爲ルカ若クハ單ニ民事賠償ノ目的タルニ過キサルモノニシテ本章ノ罪ヲ構成セサルモノトス

第一節 商業ニ關スル妨害ノ罪

第二百六十七條ハ物品ノ賣買ニ關シ第二百六十八條ハ^〇買又ハ入札ヲ商事ニ關スルカ故ニ予ハ本節ノ標題ヲ以テ之ヲ併括セリ

第一款 物品ノ賣買ヲ妨害シタル罪

第二百六十七條ニ曰ク偽計又ハ威力ヲ以テ^〇毀壞其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラタル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減スト

本條ハ我母法タル佛國刑法中ニ適切ナル類例ヲ見スト雖モ本章中他ノ法條カ佛國刑法第四百十四條以下ニ胚胎シタルニ依リテ之ヲ觀レハ恐ク同刑法第四百十九條ノ法條ヲ脱化シタルモノナラン佛國刑法第四百十五條ノ規定ハ第二百七十二條ノ淵源タルカ故ニ該條ノ說明ニ於テ之ヲ揭クヘシ

甲 本罪ノ成立要素 本罪ハ下ノ四要素ヲ以テ成立スルモノトス

(一)妨害ノ手段ハ偽計威力タルコト (二)妨害ノ目的ハ物品ノ賣買タルコト (三)賣買

ヲ妨害シタル結果アルコト (四)妨害スルノ意思アルコト是ナリ然レモ同法第百

第一ノ要素 妨害ノ手段ハ偽計威力タルコトヲ要ス

(二)偽計威力 偽計威力ヲフ熟字ハ己ニ第百六十三條ニ於テ一タヒ遭遇シタル

モノナルモ法律ハ何レノ處ニ於テモ其何モノタルヤヲ定義セザルト同時ニ此

ト相並ヒテ暴行脅迫欺罔等ノ文字アリテ其區別甚タ明瞭ナラサルノ觀アルカ

故ニ再ヒ之ヲ詳説シ以テ予カ所見ヲ示サント欲ス

(イ) 法文ノ沿革及ヒ字面ヨリ之ヲ按スルニ (一)偽計トハ佛文第一、第二章案第百

五十九條ノ Russ 佛文第二章案第二百九十八條ノ *manœuvre frauduleuse* (即チ

詐略又ハ詐欺ノ計畫ニ相當スルト其字面ノ詐略ヲ意味スルトニ依リテ之ヲ

觀レハ詐欺ノ要素ヲ包含シタル行爲ニ限ルカ如キモ (二)佛文第二章案註釋第

六百二十號ニ *L'acte primitif ne mentionnait pas les manœuvres frauduleuses* comme

moyen d'entraver la liberté des enchères: nous les avons ajoutées, carnet pas tout-à-fait le

même code français qui suppose (art. 412) des dons ou promesses dans le même but; mais outre que

ces moyens seront rares, nous pensons qu'ils rentreront dans les manœuvres frauduleuses (最

初ノ法文ニハ羅賣及ヒ入札ノ自由ヲ妨害スル方法トシテ詐欺ノ計畫ヲ記載

セザリシカ予輩ハ更ニ之ヲ追加シ而シテ其結果ハ彼ノ同一ノ目的ヲ以テ贈

與ト約束ノミヲ豫見シタル佛國刑法第四百十二條ヨリモ更ニ一步ヲ進メタ

ルコトト爲レリ蓋シ佛國法カ豫見シタル贈與又ハ約束ハ如キハ實際之ヲ見

ルコト稀ナルノミナラス其レ自身詐欺ノ計畫ナル文字ハ中ニ包含セラルル

モノナレハナリトアリテボ氏ハ與贈又ハ約束ノ如キ詐欺ノ要素ヲ含マサル

惡手段モ亦 *manœuvre frauduleuse* (詐欺又ハ惡意ノ計畫即チ偽計ナリト爲セル

ト) 第二百七十條隨テ本條ノ母法タル佛國刑法第四百十四條所謂 *manœuvre*

frauduleuse (詐欺又ハ惡意ノ計畫即チ偽計) ナル文字ニ對スル「ガロー」氏ノ説明

(同氏佛國刑法論第五卷第四二五號)ニ *manœuvre frauduleuse* (詐欺又ハ惡意ノ計

策トハ極メタ漠然タル文字ニシテ妄ニ擴張セハ極メテ平穩ナル同盟罷工ヲ

モ尙ホ之ヲ罰スルコトヲ得ヘシト雖モ千八百六十四年ノ法律舊刑法第四百

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

四

十四條ヲ現行刑法第四百十四條ノ法文ニ改正シタル法律ノ原案理由書ニ
manœuvre frauduleuse (詐欺又ハ惡意ノ計策)ト爲ルヘキモノト然ラサルモノトヲ
 例示セリ曰ク(或工業主カ他ノ競争者ヲ倒サシムル爲メ其職工ヲ買収シテ一時
 ニ罷工セシメ又ハ同盟罷工ノ首謀者カ其反抗ヲ成功セシメンカ爲メ事實ヲ
 虚構シ何等ノ計畫ヲモ爲ササルコトヲ知リナカラ雇主ハ何何ノ計畫ヲ爲セ
 リト虚誣シ詐リテ隣市ニ於ケル同盟ノ成功ヲ揚言スルカ如キハ *manœuvre*
frauduleuse 詐欺又ハ惡意ノ計策ナリ)ト以テ其意義ノ在所ヲ知ルヘキナリト
 アント同時ニ第二百六十八條ニ相當スル佛國刑法第四百十二條所謂 *don* et
promesses 贈與及ヒ約束)ニ對スル同氏ノ説明云 *Les manœuvres frauduleuses* qui ont
 ce but et ce résultat et que la loi méritait, ce sont exclusivement les don set promises (此
 目的ト此結果ヲ有スルモノニシテ法律ノ罰スル詐欺又ハ惡意ノ計策ニ偏
 贈與及ヒ約束ノミナリ)トアリテ偽計ニ相當スヘキ草案ノ *manœuvres frauduleuses*
 ナル文字ハ必スシモ詐欺ノ要素ヲ包含シタル行爲ノミナラス贈與又ハ約束
 ノ如キ單純ナル惡手段ヲモ包含スルモノタルト(二)威力トハ本條所謂偽計威

力ナル熟語ハ第二百七十條ノ母法タル佛國刑法第四百十四條ノ *l'acte de*
violence, *voies de fait* *manœuvres frauduleuses* (暴行暴力脅迫詐欺ノ計策) (故實作
 博士ノ翻譯ニハ暴行脅迫偽計トアリ)ニ相當スルモノニシテ法律カ詐欺又ハ
 惡意ノ計策ヨリ暴行ニ至ルマテノ手段ヲ網羅シタルニ依リテ之ヲ觀レハ其
 所謂 *menaces* 脅迫ハ極メテ輕キ脅迫即チ權力ノ濫用ヲ含ムモノナリトスル
 ハ佛國一般ノ解釋ニシテ最モ適當ト認ムルト同時ニ暴行脅迫ナル熟語アル
 ニモ拘ラス特ニ威力ナル文字ヲ擇ヒタルハ輕キ脅迫ヲモ含マシムルノ精神
 ナリト認ムルコトヲ得ヘキト

(a) 理論上ヨリ之ヲ按スルニ物品ノ買買又ハ農工業ノ阻害セラルルハ彼ノ機
 體等ノ喜フヘカラサルト一般縱令自然ノ結果トシテ發生スルモ決シテ喜フ
 ヘキニ非ス唯其レ自身犯罪タラサルハ平穩ナル手段ニ依ルモノ隨テ經濟上
 自然ノ現象ト看做スヘキモノナルカ故ノミ苟モ或不正ナル手段ヲ用ヒ強テ
 之ヲ發生セシメタル者アラシカ法ハ決シテ不問ニ付スヘキノ理由ナキトニ
 依リテ之ヲ觀レハ茲ニ所謂偽計威力トハ詐欺ノ計策又ハ暴行及ヒ重キ脅迫

ノミニ止マラス賄賂其他ノ方法ヲ以テスル諸般ノ惡策乃至輕キ脅迫若シハ
 權力ノ濫用等ヲモ包含スルモノト確信スルニ關シテハ、
 (二) 偽計又ハ威力ヲ手段トシタルコトヲ要スルカ故ニ彼ノ凶年ニ際シ物品ヲ賣
 買セハ人民皆塗炭ニ陷ラシト云フカ如ク單ニ賣主又ハ買主ニ利害ヲ說キ其
 賣買ヲ中止セシメタルモノ即チ特別ノ奸策ヲ施ササル平穩ノモノハ之ヲ包含
 セサルハ勿論縱令偽計威力ヲ用フルモ之ヲ手段トシタルコト即チ偽計威力ト
 賣買ノ妨害トノ間ニ原因結果ノ關係アルニ非スンハ罪ヲ構成セサルモノトス
 (注意) 本要素ノ說明ハ第二百六十八條乃至第二百七十一條所謂偽計威力ニ
 共通ノモノナルカ故ニ右數條ノ解釋ニ付テモ亦之ヲ應用スルコトヲ要ス
 第二ノ要素 妨害ノ目的ハ物品ノ賣買タルコトヲ要ス
 (一) 物品 物品トハ廣ク有形ノモノヲ意味セシムルコトヲ得ルカ如キ語ナ
 ルモノ一般ノ用語ニ於テ物品トハ動產物ノミヲ指スノ語タルトモ本條ニ相
 當スル佛文第一章案第二百九十八條第一項ニ「des riz ou d'autres produits ali-
 mentaires d'un usage général et indispensable, des huiles des charbons ou des bois de chau-

mage ou de construction... (米其他一般ノ需用ニ缺クヘカラサル食料油薪建築ノ
 材本云云第二項ニ「à toutes autres denrées ou marchandises non prévues au présent
 article (本條ニ記載セサル其他ノ商品云云) アルニ依リテ之ヲ觀レハ商品即チ
 普通商業上賣買取引ノ目的トスル動產物即チ貨物ヲ指スモノニシテ公債株券
 諸般ノ物權等無形ノモノハ勿論有形物ト雖モ不動產ノ如キモノハ此中ニ入ラ
 ス但シ次條羅賣人札ニ付テハ廣ク諸般ノ物ノ羅賣入札ヲ保護スルト同時ニ本
 條保護ノ目的ハ次條ヨリモ或點ニ於テ廣キ行爲タル賣買タルニモ拘ラス之ヲ
 貨物ノ賣買ニ限リタルハ果シテ何ノ意カ昔時ニ於テハ兎ニ角現今ニ於テハ株
 券ノ如キハ取引ノ目的物トシテ最重要ナルモノタリ畢竟立法者ハ商業上ニ
 於ケル賣買ノ目的物ハ貨物ニ限ルト云フカ如キ古キ思想ニ羈束セラレシニ非
 ズヤ
 (二) 賣買 賣買トアルカ故ニ單ニ民法上所謂賣買ノミヲ意味スルカ如キモ
 (イ) 立法ノ精神ヨリスレハ唯之ヲ賣買ニ限ルノ理由ナキノミナラス(ロ) 草案ニ
 於テ現ニ「l'embarquement ou au débarquement, à la circulation ou à la vente荷擔荷卸運轉

又ハ賣買トアルニ依リテ之ヲ觀レハ茲ニ賣買トハ廣ク賣買其他ノ商取引ト云フコトヲ意味スルモノトス。

(三) 物品ノ賣買ヲ妨害ノ目的トシタルコトヲ要スルモノニシテ本條ハ畢竟物品ノ商取引ヲ保護スルカ爲メニ規定セラレタルモノナルカ故ニ或物品ノ賣買ト云フコトニ關セシテ單ニ或一人又ハ數人ノ營業ヲ妨害セントスルニ出タルトキハ先ニ説明セタル如ク本條ノ關スル所ニ非ス。

第三ノ要素 賣買ヲ妨害シタル結果アルコトヲ要ス。

法律ニハ「妨害シタル者」アリテ結果ノ生シタルコトヲ要スルカ故ニ偽計又ハ威力ニ依リテ一時若クハ永久ニ賣買ヲ阻害セラレタル事實ナキ場合例ヘハ賣主又ハ買主ニ於テ偽計ノ爲メ蠱惑セラレ又ハ威力ノ爲メニ一時其意思ヲ左右セラレタルモ敢テ其賣買ヲ終了セタルトキハ單ニ未遂犯タルニ過キタルモノニシテ未遂犯ハ法律之ヲ罰セサルカ故ニ無罪タルヘキモノトス但シ賣買ハ一ノ行爲ニシテ一部分ノ阻害モ亦賣買其モノノ阻害ナルカ故ニ罪ヲ構成スヘキコト論ヲ俟タサルナリ。

第四ノ要素 賣買ヲ妨害スルノ意思アルコトヲ要ス

本條ハ彼ノ郵便妨害罪ト同シク賣買妨害ノ結果ハ必スシモ之ヲ希望スルコトナクシテ生スルコトヲ得ヘク又犯人ニ於テモ妨害ト爲ルヘキコトヲ知り得ルニモ拘ラズ敢テ妨害ノ結果ヲ生スヘキ行爲ヲ爲スコトアリト雖モ本條ノ性質上法律ハ特ニ此意思アルコトヲ要スルカ故ニ彼ノ單ニ商人ト爭鬭ヲ爲シ因リテ自傷セシメタル結果遂ニ其賣買ヲ妨害シタルカ如キ場合ニ於テハ別罪ヲ構成スルハ格別本罪ヲ構成スルノ限ニ在ラサルモノトス。

乙 處分 處分ニ付キ法律ハ數類其他衆人ノ需用ニ缺クヘカラサル食物即チ米麥鹽醬油等一般人民ノ生活ニ缺クヘカラサル必要ノ食用物ニ關スルト然ラサルモノ即チ食用物以外ノ必要品乃至有用品贅澤品ニ關スルトハ區別別前若ニ係ルトキハ一月以上六月以下ノ重禁錮及ヒ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ後若ニ係ルトキハ一等ヲ減スルコトトセリ。

人或ハ法文所謂以外トハ食用物ニノミニ係ルノ語ニシテ食用物以外ニ於テ衆人ノ需用ニ缺クヘカラサル物品例ヘハ薪炭材木綿布等ノ如キ必要物ハ之ヲ包

合セスト言フ者アリト雖モ是レ大ナル誤謬ナリ蓋シ法文前項ニ記載シタル以外ノ物品トハ文法上唯リ食用物ニノミ繫ルト解スルヲ得サルノミナラス現ニ本條ニ相當スル佛文第一章第二百九十八條第二項ニハ、*à toutes autres denrées ou marchandises non prévues au présent article* (前項ニ記載シタル以外ノ總テノ商品トアリテ佛文第二章第二百九十八條ノ理由中六一九號、*une distinction est faite ici entre les diverses denrées et marchandises, dans une première classe sont les denrées comme nécessaires aux populations, dans la seconde sont toutes les autres qui leur sont simplement utiles: on envoie que l'autre au commerce soit prime l'un seulement pour les premières que pour les secondes*) (註ハ諸種ノ商品ヲ區別シ第一級ハ衆人ニ必要ナルモノト思料セラレタル商品第二級ハ其他單ニ衆人ニ有用ナル商品トセリ蓋シ第一級ノ物ニ對スル害惡ハ第二級ノ物ニ對スルヨリモ嚴重ニ處斷セサルヘカヲサレハナリ) (註) An contraire, la seconde classe comprend toutes autres denrées ou marchandises, jusqu'aux métaux, même aux objets de luxe, aux tissus aux instruments, quelconque. (註) 反シ第二級ハ其他ノ商品即チ金屬乃至織物器械等ノ贅澤品ヲ包含ストアリテ確定法文

カ之ヲ排除シタルノ痕跡毫モ見ルヘキモノナケレハナリ終ニ臨ミ一言注意スヘキモノアリ他ニアラス本罪(第二六八條乃至第二七一條第一六三條等)ハ脅迫ヲ以テ行ハルルコトヲ得ヘキモノニシテ脅迫ハ第三百二十六條以下ノ條件ヲ具備スルトキハ其レ自身罪ヲ構成シ其目的ノ如何ハ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ茲ニ揭タル所ノ目的ヲ以テ脅迫スルモ其脅迫カ第三百二十六條ノ條件ヲ具備シタルトキハ第三百二十六條ニ入ルヘキモノニシテ本罪ヲ構成セシ隨テ脅迫カ本罪ノ手段タルカ爲メニハ第三百二十六條ノ條件ヲ具備セサル場合タルコトヲ要スルコト是ナリ

是ニ於テカ佛國ノ或有力ナル學者中第二百七十一條マテノ犯罪ハ其レ自身他ノ犯罪ト爲ラサルモノ隨テ不法ト看做スヘカヲサル手段ト賣買ノ阻害又ハ同盟罷工ト云フ其レ自身自然ノ狀況ニ於テハ罪ト爲ラサル目的換言スレハ二箇ノ無罪タルヘキモノヲ合シテ有罪トシタルモノニシテ無ヨリ有ヲ生セシメタルモノナルカ故ニ極メテ背理ノ規定タリ宜シク一抹ニ付シ以テ單ニ脅迫ノ規定ヲ以テ満足スヘシト主張スル者アリト雖モ是レ先ニモ説明シタルカ如ク

賣買ノ阻害又ハ同盟罷工ハ饑饉ノ喜フヘカラサルト共ニ決シテ喜フヘキ現象ニ非ス隨テ經濟界自然ノ必要ヨリ生ゼタルモノトスレハ已ムヲ得サルモ強ク之ヲ發生セシメ以テ平地ニ波動ヲ起スノ行爲ハ害惡ヲ發生セシメタルモノニシテ犯罪タリト謂ハサルヘカラサルコトヲ忘却シタル皮相ノ見ニシテ探ルニ足ラサルナリ

第二款 羅賣又ハ入札ヲ妨害シタル罪

第二百六十八條ニ曰ク「偽計又ハ威力ヲ以テ羅賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加スト」本條ノ規定ハ佛國刑法第四百十二條ニ淵源スルモノニシテ素ト佛國ニ於テ本罪ノ規定セラレタルハ國有財產競賣ノ際往々威力又ハ奸策ヲ以テ之ヲ阻害シタル者アリシカ故ニシテ其規定ハ國有財產ノ競賣ニ限リシカ千八百十年佛國刑法編纂ノ際更ニ第四百十二條ヲ以テ從來ノ規定ヲ補充シ管ニ國有財產ニ止マラス諸般ノ羅賣及ヒ入札ニモ適用セラルルコトト爲リタルモノニシテ我法

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一個年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録ハ之ヲ完了セサルトキハ號外ヲ發ス
- 一 第一部 毎月 五日 二十日
- 一 第二部 毎月 十日 廿五日
- 一 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ニ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生ニ取扱ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年三月廿六日印刷
明治三十四年三月三十日發行

東京市四谷區四谷町三丁目三十八番地

編輯者 小田 幹治 郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵五 郎

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法官 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)